高島市小規模地域人口推計業務委託

業務報告書

令和６年７月

一般財団法人
地域活性化センター
Japan Center for Regional Development

人口・地域経済研究室
03-5202-6133
kenkyu@jcrd.jp
東京都中央区日本橋2-3-4
日本橋ﾌﾟﾗｻﾞﾋﾞﾙ13F
http://www.jcrd.jp/
Facebookページ「地域づくりの現場なう！」

目 次

1 はじめに	・・・・・・	3
2 人口推計の手法	・・・・・・	4
3 高島市の概況	・・・・・・	6
4 高島市人口ビジョン概要	・・・・・・	10
5 人口推計及びシミュレーションについて	・・・・・・	11
6 高島市全体の人口推計（現状分析、現状推移及びシミュレーション）	・・・・・・	13
7 現状推移とシミュレーション結果の比較	・・・・・・	19
8 地域別の人口推計（現状分析、現状推移及びシミュレーション）	・・・・・・	20
8-1.マキノ地域　8-2.今津地域　8-3.新旭地域　8-4.安曇川地域 8-5.高島地域　8-6.朽木地域		
9 【参考】追加シミュレーション	・・・・・・	56
10 シミュレーション内容と結果	・・・・・・	63
11 【参考事例】 他地域における取組	・・・・・・	66
12 おわりに	・・・・・・	70

1. はじめに

地域の将来や目指す姿、行政の施策を考える際、人口は全ての基礎となるデータである。

そのため、地方自治体は、国のまち・ひと・しごと創生の取組を踏まえ、「地方人口ビジョン」による地域人口の現状分析、長期的な人口の将来展望などを行うとともに、「人口減少克服」と「地方創生」の観点から「地方版総合戦略」を策定し、地方自治体の描く将来像に向け、地方創生の取組を進めている。

今後、それらの取組を更に進めていくためには、地方創生の主役である地域住民が、地域の現状を認識することが重要であり、地域の人口などについても現状のまま推移した場合どうなるか、どのくらい改善すればよいか、具体的な数字を用いて理解しやすいかたちで示すことが求められている。また、それぞれの地域において問題意識の共有が図られることで、地域住民のまちづくりへの積極的な参加につながるものと考える。

本書では、小規模地域での人口推計に適しているとされる「コーホート変化率法」により、2024年1月1日時点の住民基本台帳人口とその5年前の人口の変化率を分析して、高島市、地域別の将来の人口推計及びシミュレーションを実施する。

本書が、それぞれの地域で検討される各分野・各施策の基礎資料として幅広く活用いただければ幸いである。

なお、当センターで使用する「コーホート変化率法」に基づく人口推計については、「島根県中山間地域研究センター」で開発された手法を参考にしている。

2. 人口推計の手法（1）

➢ コーホート変化率法

- 過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法
- 年齢別・男女別の基準年及び5年前の人口から算出
- 小規模地域別の推計をする場合に最適

  「地域活性化センター」

  「島根県中山間地域研究センター」

➢ コーホート要因法

- 「自然増減（※1）」及び「純移動（※2）」という二つの『人口変動要因』のそれぞれについて将来値を仮定し、それに基づいて将来人口を推計する方法

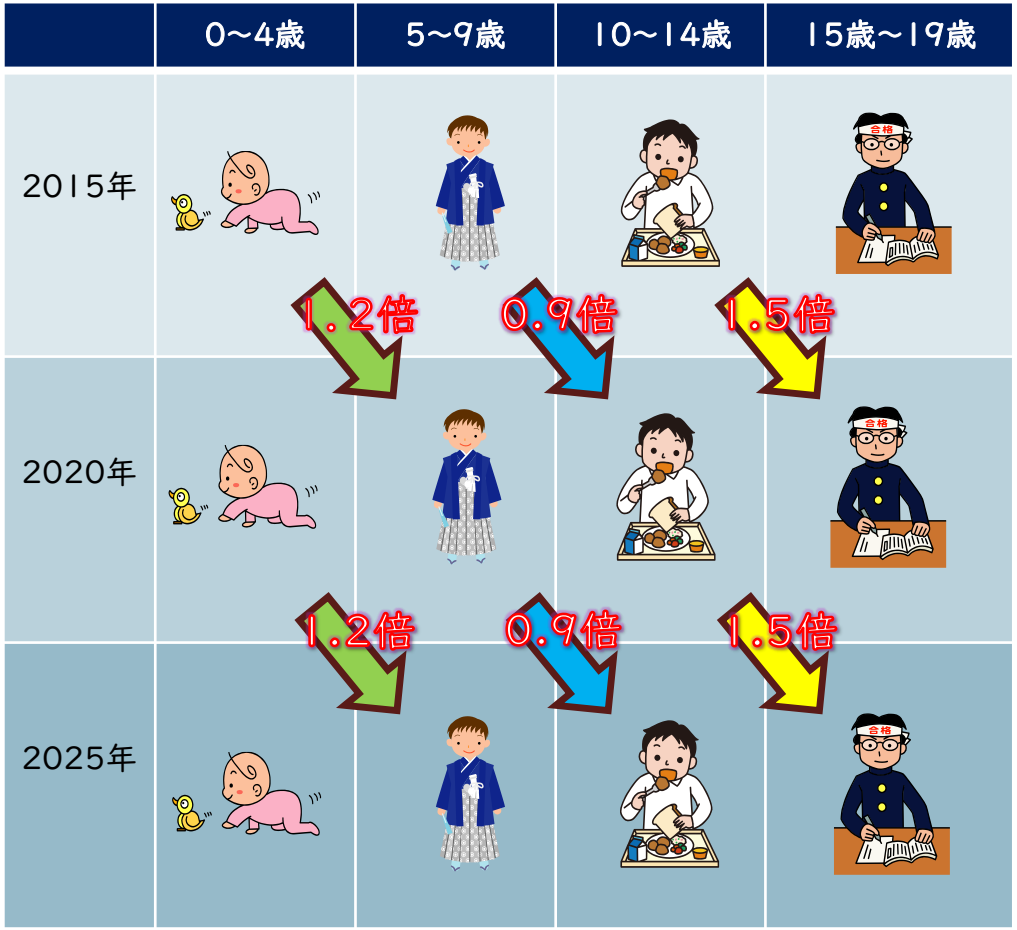
  （※1）自然増減・・・出生と死亡による人口の増減

  （※2）純移動・・・転入数から転出数を差し引いた数
- 年齢別・男女別の基準年人口に生残率・出生率・純移動率等を乗じて算出
- 全国ベースの推計をする場合に最適

  「国立社会保障・人口問題研究所」

  「日本創成会議」

【イメージ図：コーホート変化率法】



2. 人口推計の手法（2）

➢ 住民基本台帳のデータを活用可能

- 生残率等のデータがない小規模地域の人口推計が可能
- 最新の状況への更新が容易

➢ 変数操作が容易

- 地域の課題・可能性に応じたシミュレーションが可能
- 地域住民の方の意見を反映した、具体的な「人口戦略」の策定に有効

田園回帰１％戦略～地元に人と仕事を取り戻す～藤山 浩　著

毎年、地域人口の1％分を新たに取り戻していけば、地域人口の安定化が見えてくる。

毎年達成

1,000人の集落 ⇒ 10人 ⇒ 例えば、子育て世代家族2組（親2、子1）＋ 退職後夫婦2組

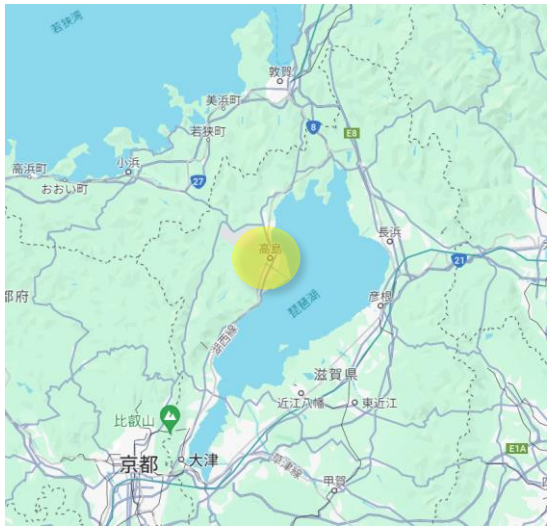
300人の集落 ⇒ 3人 ⇒ 例えば、子育て世代家族1組（親2、子1）

100人の集落 ⇒ 1人 ⇒ 例えば、域外進学者のUIJターン就職 1人

シミュレーション

ほとんどの集落や地域で
人口減少・高齢化・少子化が緩和される

3. 高島市の概況（1）



滋賀県の北西部に位置する。
東部は琵琶湖に、南西部は比良山地を境に大津市及び京都府に、北西部は饗庭野、野坂山地を境に福井県に接している。

都道府県	滋賀県
市町村	高島市
面積	693km^2
総人口	45,780人 （2024年1月1日住民基本台帳）
人口密度	66人/km^2
隣接自治体	大津市、長浜市、京都府京都市、京都府南丹市、福井県敦賀市、福井県美浜町、福井県若狭町、福井県小浜町、福井県おおい町
市の木	サクラ

出典：Google Map

3. 高島市の概況（2）

来　歴：高島郡の成立は、今から約1300年前にさかのぼる。
平成17年1月1日にマキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町が合併し高島市が誕生した。

地　勢：安曇川と石田川流域の扇状地や三角州にまとまった平地があるほかは、比良山地や野坂山地など森林が広がっている。気候的には日本海側に近いことから冬季の寒さは厳しく、積雪量の多い日本海側気候となっている。また、秋季には「高島しぐれ」と呼ばれる降雨がしばしばある。

沿　革：高島市役所最寄のJR駅は新旭駅。京都駅から新旭駅までは電車で約50分、大阪駅からは約80分、米原駅からは約65分となっている。バス路線は江若交通、西日本JRバス、京都バスなどがある。

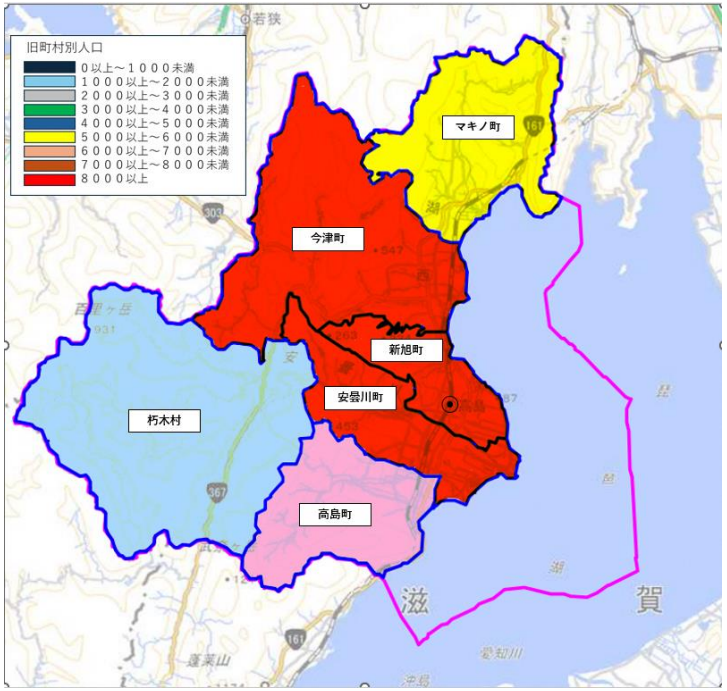
画像：高島市HPより

3. 高島市の概況（3）

地域	地区
マキノ町	在原、石庭、浦、大沼、海津、上開田、小荒路、沢、下、下開田、白谷、新保、高木浜一丁目、高木浜二丁目、知内、辻、寺久保、中庄、西浜、野口、蛭口、牧野、森西、山中
今津町	天増川、今津、桜町一丁目、桜町二丁目、松陽台一丁目、松陽台二丁目、住吉一丁目、住吉二丁目、中沼一丁目、中沼二丁目、名小路一丁目、名小路二丁目、舟橋一丁目、舟橋二丁目、梅原、追分、大供、大供大門一丁目、大供大門二丁目、桂、上弘部、岸脇、北生見、北仰、酒波、狭山、下弘部、杉山、角川、途中谷、浜分、日置前、弘川、深清水、福岡、保坂、南生見、南新保、椋川、藺生
新旭町	饗庭、旭、旭一丁目、旭二丁目、太田、北畑、北畑一丁目、北畑二丁目、北畑三丁目、熊野本、熊野本一丁目、熊野本二丁目、新庄、新庄一丁目、新庄二丁目、針江、深溝、安井川、安井川一丁目、安井川二丁目、藁園
安曇川町	青柳、上小川、上古賀、川島、北船木、五番領、下小川、下古賀、末広一丁目、末広二丁目、末広三丁目、末広四丁目、田中、中央一丁目、中央二丁目、中央三丁目、中央四丁目、常盤木、中野、長尾、西万木、三尾里、南古賀、南船木、横江、横江浜、四津川
高島町	鵜川、音羽、勝野、鴨、鴨川平一丁目、鴨川平二丁目、鴨川平三丁目、黒谷、鹿ヶ瀬、城山台一丁目、城山台二丁目、高島、永田、野田、拝戸、畑、宮野、武曽横山
朽木村	麻生、荒川、市場、岩瀬、雲洞谷、生杉、大野、小入谷、柏、桑原、小川、地子原、栃生、中牧、能家、野尻、古川、古屋、平良、宮前坊、村井

3. 高島市の概況（4）

行政区別の人口分布（2024年1月）

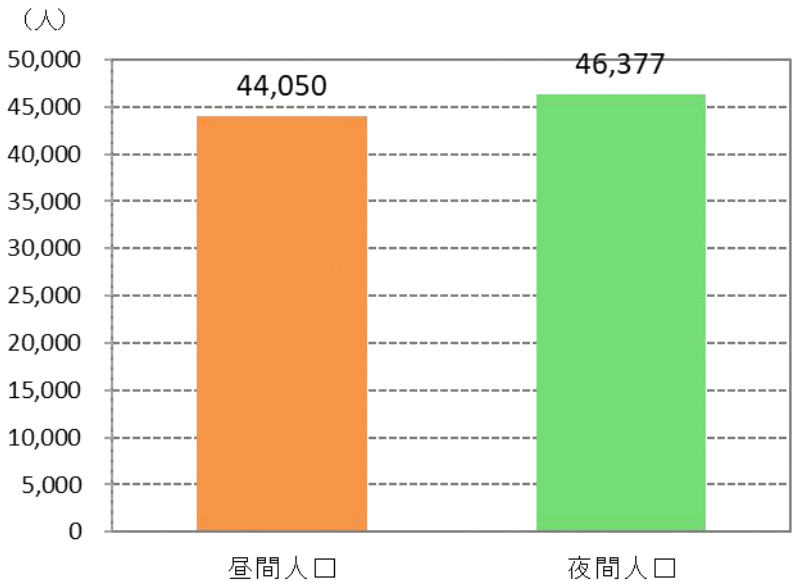


出典：高島市住民基本台帳人口（2024.1.1時点）jSTAT MAPにより作成

⦿…高島市役場

旧町別の人口をみると、安曇川町、新旭町、今津町はいずれも人口が10,000人を超えており、市中心部に人口が集中していることが分かる。一方、山間部である朽木村は他の5町と比較して人口が少ないことが分かる。

昼間人口と夜間人口（2020年）



出典：総務省統計局「2020年国勢調査」

昼間人口が夜間人口よりも2,327人少なく（▲5.0%）、通勤者・通学者が地域外に流出している。

自動車の利用によって、大津市などが通勤圏となっている。また 地形や地理的制限はあるものの、通勤・通学の環境は比較的整備されている地域であり、市外への通勤者が多い状況にある。

4. 高島市人口ビジョン（2023年7月策定）概要

【主な傾向】

・1975年から増加傾向にあったが2000年をピークに現在は減少傾向にある。

・国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の推計によると、2065年の人口は2000年の人口（55,451人）と比べて61％程度減少し、21,403人になると推測されている。

（出典：国勢調査、社人研推計）

【目指すべき将来の方向】
人口減少がもたらす様々な課題を克服するため、結婚・出産・子育て、移住・定住に関する希望を実現するとともに、安心して暮らし続けることができる地域社会づくりを行うことにより、人口減少に歯止めをかけるとともに、将来的に年代バランスの取れた人口構成の安定化を図る。

■総人口

2040年（令和22）年に4.1万人、2060（令和42）年に3.5万人の人口を維持する。

■自然増減

2023（令和5）年からの年間出生数250人を維持する。これにより、合計特殊出生率は将来的に国民希望出生率（1.80）程度に上昇する。（2025（令和7）年に1.65、2030（令和12）年に1.70、2040（令和22）年に1.80）。

■社会増減

転出超過が続く社会増減を、2022（令和4）年以降はプラス（社会増）にする。これにより、年代観のバランスの取れた人口構成を目指す。

5. 人口推計及びシミュレーションについて（1）

【前提条件】

① 市内の6地域（旧町村単位）の外国人を含めた人口動態に関する「現状分析」、「現状で推移した場合の将来推計」を行った。

② 推計の手法については、変数操作や最新の状況への更新が容易であり、小規模地域の人口推計に適している**コーホート変化率法を用いた**。

③ コーホート変化率は、地域別に住民基本台帳における2024年1月1日人口を基準とし、5年前である2019年1月1日の人口からコーホート変化率を算出し、それを2020年1月1日人口に掛け合わせ2025年1月1日人口を算出。

④ 推計にあたっては、地域別の将来推計人口と高齢化率の推移、児童・生徒数の推移を5年ごとのグラフで表示した。グラフは2020年は実績値であり、2025年以降は推計値である。人口ピラミッドは2025年と2065年の比較を表示した。

⑤ 推計は四捨五入で行っているため、男女または年代別の合計が総数に合致しない場合がある。

⑥ 高島市全体人口の推計は2020年1月1日の全体人口に対し実施したものであるため、個別に実施した高島市内6地域の推計値の合算とは異なる。

5. 人口推計及びシミュレーションについて（2）

高島市及び6地域で行うシミュレーションは下記の2パターンとした。

【対象地区】

【シミュレーション①】

・毎年７０人の流入
（0～4歳4人、5～9歳4人、10～14歳4人、15～19歳4人、20～24歳7.2人、25～29歳7.2人、30～34歳7.2人、35～39歳6人、40～44歳6人、45～49歳6人、50～54歳3.2人、55～59歳3.2人、60～64歳3.2人 、65～69歳3.2人、70～74歳1.6人）
・合計特殊出生率が5年ごとに変動
（2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）

全地域

【シミュレーション②】

・毎年７０人の流入
（0～4歳4人、5～9歳4人、10～14歳4人、15～19歳4人、20～24歳7.2人、25～29歳7.2人、30～34歳7.2人、35～39歳6人、40～44歳6人、45～49歳6人、50～54歳3.2人、55～59歳3.2人、60～64歳3.2人 、65～69歳3.2人、70～74歳1.6人）
・合計特殊出生率を1.60に固定

全地域

・高島市全体人口の推計は2020年1月1日の地域全体人口に対し実施したものであるため、市内６地域の推計値の合算とは異なる。

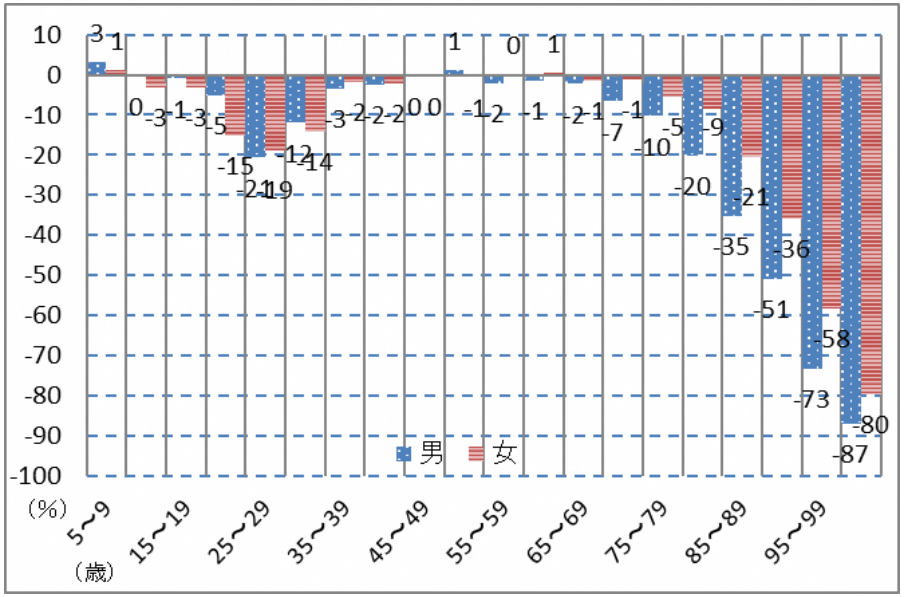
6. 高島市全体の人口推計【現状分析】

●合計特殊出生率 1.21
●高齢化率 37%

◇ 人口推移実績（高島市）

	2020年		2025年（推計値）	増減	増減率
高島市	**48,200**	**⇒**	**44,949**	**▲3,251**	**▲6.74%**
男性	23,576	⇒	22,003	▲1,573	▲6.67%
女性	24,624	⇒	22,947	▲1,677	▲6.81%

◇ コーホート変化率（2020年 → 2025年）



✓「5～9歳」の男女（男性25人・女性9人）で流入超過となっている。

✓ 一方で、「25～34歳」の男女（男性▲380人・女性▲323人）で流出超過となっている。特に、「25～29歳」の男性（▲250人）の流出が大きい。

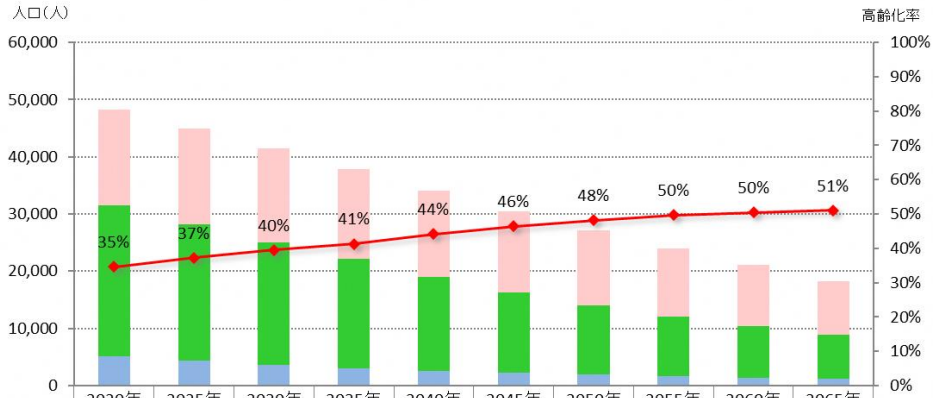
6. 高島市全体の人口推計【現状推移】

◇ 人口推移の解説

【2025年と2065年の比較】

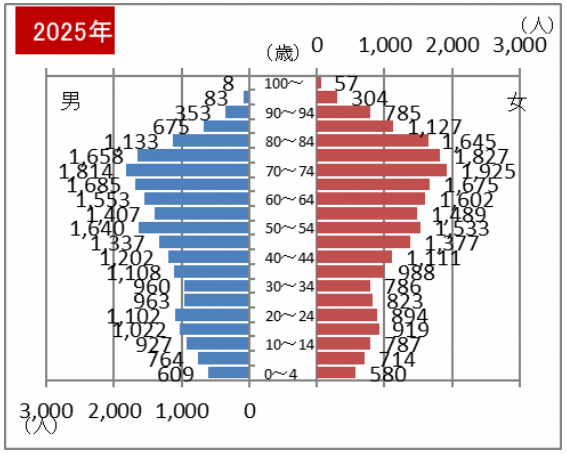
- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、高島市の人口は44,949人が18,295人となり26,654人減少（増減率▲59.3%）
- ✓ 年少人口は4,380人→1,194人（同▲72.7%）に、生産年齢人口は23,816人→7,769人（同▲67.4%）に減少
- ✓ 老年人口は16,754人→9,333人（同▲44.3%）に減少し、高齢化率は51%まで上昇
- ✓ 児童・生徒数は2,989人→808人（同▲73.0%）に減少
- ✓ 15～49歳までの女性は6,898人→1,928人（同▲72.0%）に減少

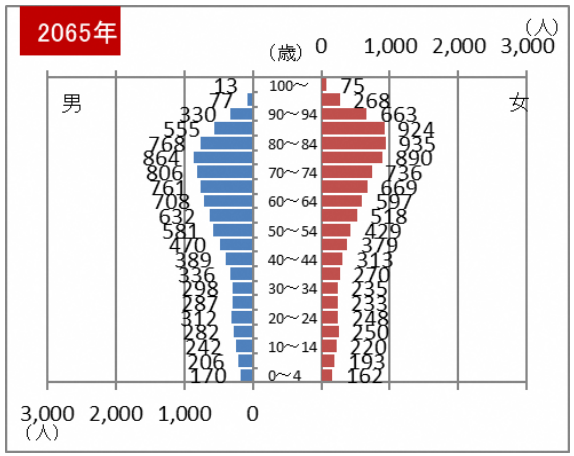
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



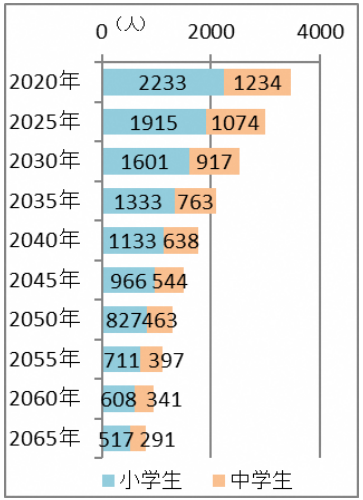
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	16,670	16,754	16,372	15,623	15,079	14,172	13,058	11,924	10,618	9,333
15～64歳	26,364	23,816	21,389	19,096	16,415	14,097	12,143	10,404	9,013	7,769
0～14歳	5,166	4,380	3,672	3,081	2,617	2,240	1,917	1,645	1,403	1,194
合計	48,200	44,949	41,433	37,800	34,111	30,509	27,119	23,972	21,034	18,295
高齢化率	35%	37%	40%	41%	44%	46%	48%	50%	50%	51%

◇ 人口ピラミッド（2025年 → 2065年）





◇ 児童・生徒数の推移



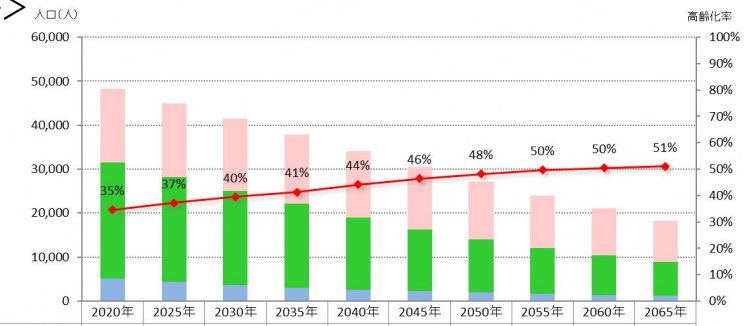
6. 高島市全体の人口推計【シミュレーション①】

【シミュレーション想定条件】
毎年70人の流入
（0～4歳4人、5～9歳4人、10～14歳4人、15～19歳4人、20～24歳7.2人、25～29歳7.2人、30～34歳7.2人、35～39歳6人、40～44歳6人、45～49歳6人、50～54歳3.2人、55～59歳3.2人、60～64歳3.2人 、65～69歳3.2人、70～74歳1.6人）
合計特殊出生率が5年ごとに変動
（2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）
【合計 毎年70人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の市内人口は23,668人となり、現状推移の18,295人を5,373人（増減率＋29.4%）上回る。
- ✓ 年少人口は2,738人となり、現状推移の1,194人を1,544人（同+129.3%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は11,008人となり、現状推移の7,769人を3,239人（同+41.7%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は9ポイント改善し42%となる。

<現状推移>



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	16,670	16,754	16,372	15,623	15,079	14,172	13,058	11,924	10,618	9,333
15～64歳	26,364	23,816	21,389	19,096	16,415	14,097	12,143	10,404	9,013	7,769
0～14歳	5,166	4,380	3,672	3,081	2,617	2,240	1,917	1,645	1,403	1,194
合計	48,200	44,949	41,433	37,800	34,111	30,509	27,119	23,972	21,034	18,295
高齢化率	35%	37%	40%	41%	44%	46%	48%	50%	50%	51%

<シミュレーション結果>

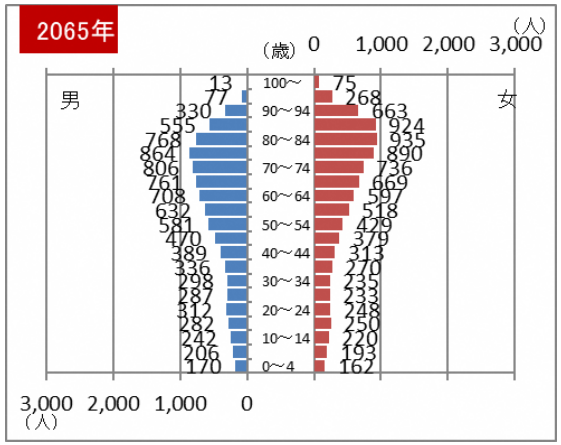
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	16,670	16,754	16,396	15,686	15,193	14,347	13,315	12,278	11,082	9,921
15～64歳	26,364	23,816	21,655	19,616	17,181	15,493	14,100	12,814	11,856	11,008
0～14歳	5,166	4,380	4,126	3,986	3,945	3,624	3,361	3,152	2,928	2,738
合計	48,200	44,949	42,177	39,287	36,319	33,464	30,776	28,243	25,866	23,668
高齢化率	35%	37%	39%	40%	42%	43%	43%	43%	43%	42%

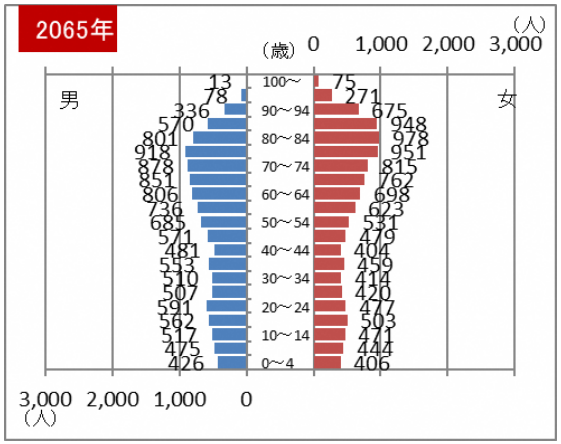
6. 高島市全体の人口推計【シミュレーション①】

◇ シミュレーション結果の解説

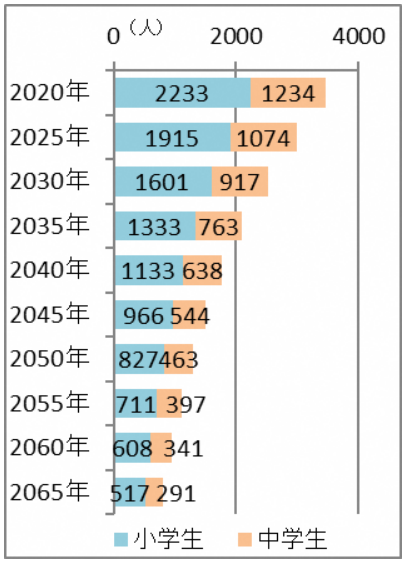
- ✓ 2065年時点の人口ピラミッドは、現状推移の場合が少子高齢化を示す逆三角形型になることに比べて、シミュレーション条件の達成により、すべての年代で増加が見込まれる。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で、小学生が1,144人となり、現状推移の517人を627人（増減率+121.3%）上回り、中学生が608人となり、現状推移の291人を317人（同+108.9%）上回る。

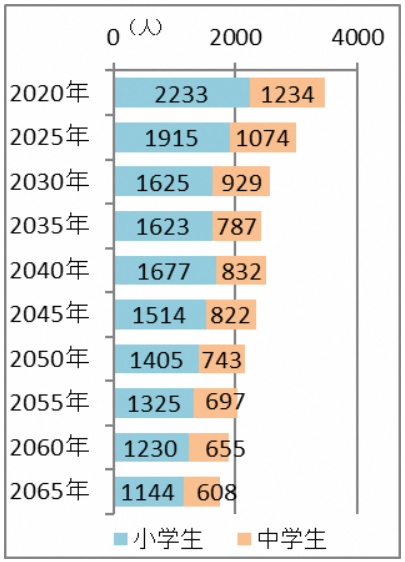
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





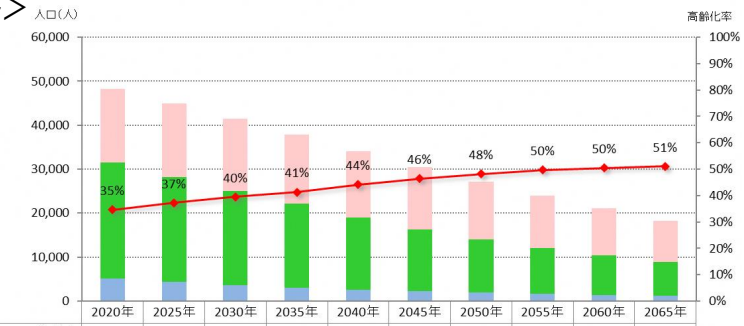
6. 高島市全体の人口推計【シミュレーション②】

【シミュレーション想定条件】
毎年70人の流入
（0～4歳4人、5～9歳4人、10～14歳4人、15～19歳4人、20～24歳7.2人、25～29歳7.2人、30～34歳7.2人、35～39歳6人、40～44歳6人、45～49歳6人、50～54歳3.2人、55～59歳3.2人、60～64歳3.2人 、65～69歳3.2人、70～74歳1.6人）
合計特殊出生率が1.60を推移
【合計　毎年70人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の市内人口は22,915人となり、現状推移の18,295人を4,620人（増減率＋25.3%）上回る。
- ✓ 年少人口は2,358人となり、現状推移の1,194人を1,164人（同+97.5%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は10,636人となり、現状推移の7,769人を2,867人（同+36.9%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は8ポイント改善し43%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	16,670	16,754	16,372	15,623	15,079	14,172	13,058	11,924	10,618	9,333
15～64歳	26,364	23,816	21,389	19,096	16,415	14,097	12,143	10,404	9,013	7,769
0～14歳	5,166	4,380	3,672	3,081	2,617	2,240	1,917	1,645	1,403	1,194
合計	48,200	44,949	41,433	37,800	34,111	30,509	27,119	23,972	21,034	18,295
高齢化率	35%	37%	40%	41%	44%	46%	48%	50%	50%	51%

＜シミュレーション結果＞

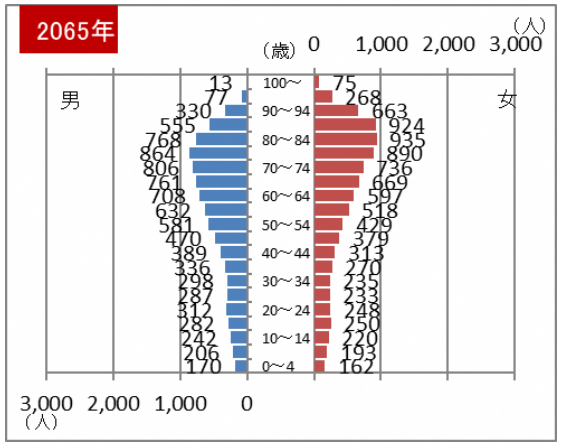
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	16,670	16,754	16,396	15,686	15,193	14,347	13,315	12,278	11,082	9,921
15～64歳	26,364	23,816	21,655	19,616	17,181	15,451	13,989	12,622	11,568	10,636
0～14歳	5,166	4,380	4,084	3,868	3,730	3,326	3,014	2,778	2,554	2,358
合計	48,200	44,949	42,135	39,170	36,104	33,124	30,317	27,678	25,204	22,915
高齢化率	35%	37%	39%	40%	42%	43%	44%	44%	44%	43%

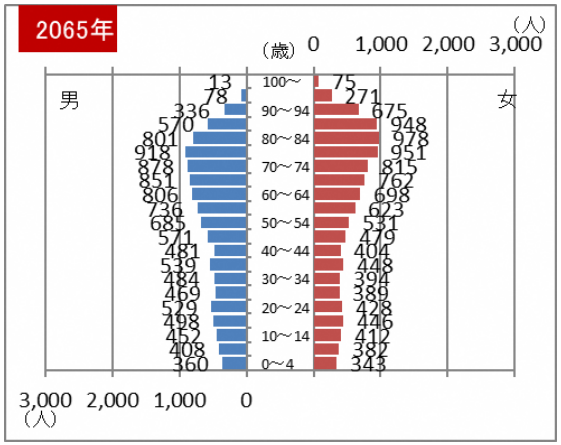
6. 高島市全体の人口推計【シミュレーション②】

◇ シミュレーション結果の解説

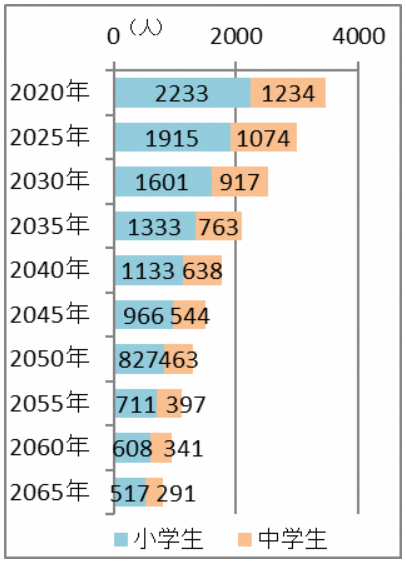
- ✓ 2065年時点の人口ピラミッドは、現状推移の場合が少子高齢化を示す逆三角形型になることに比べて、シミュレーション条件の達成により、すべての年代で増加が見込まれる。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で、小学生が993人となり、現状推移の517人を476人（増減率+92.1%）上回り、中学生が534人となり、現状推移の291人を243人（同+83.5%）上回る 。

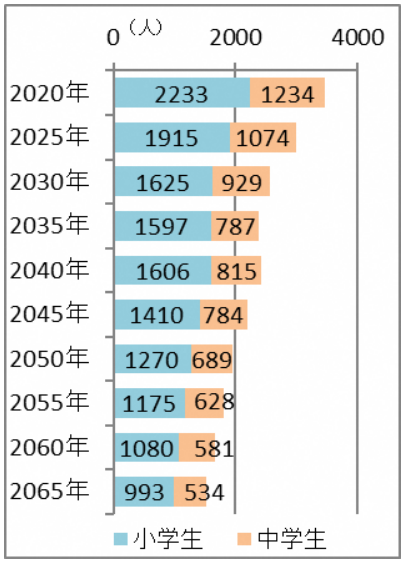
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





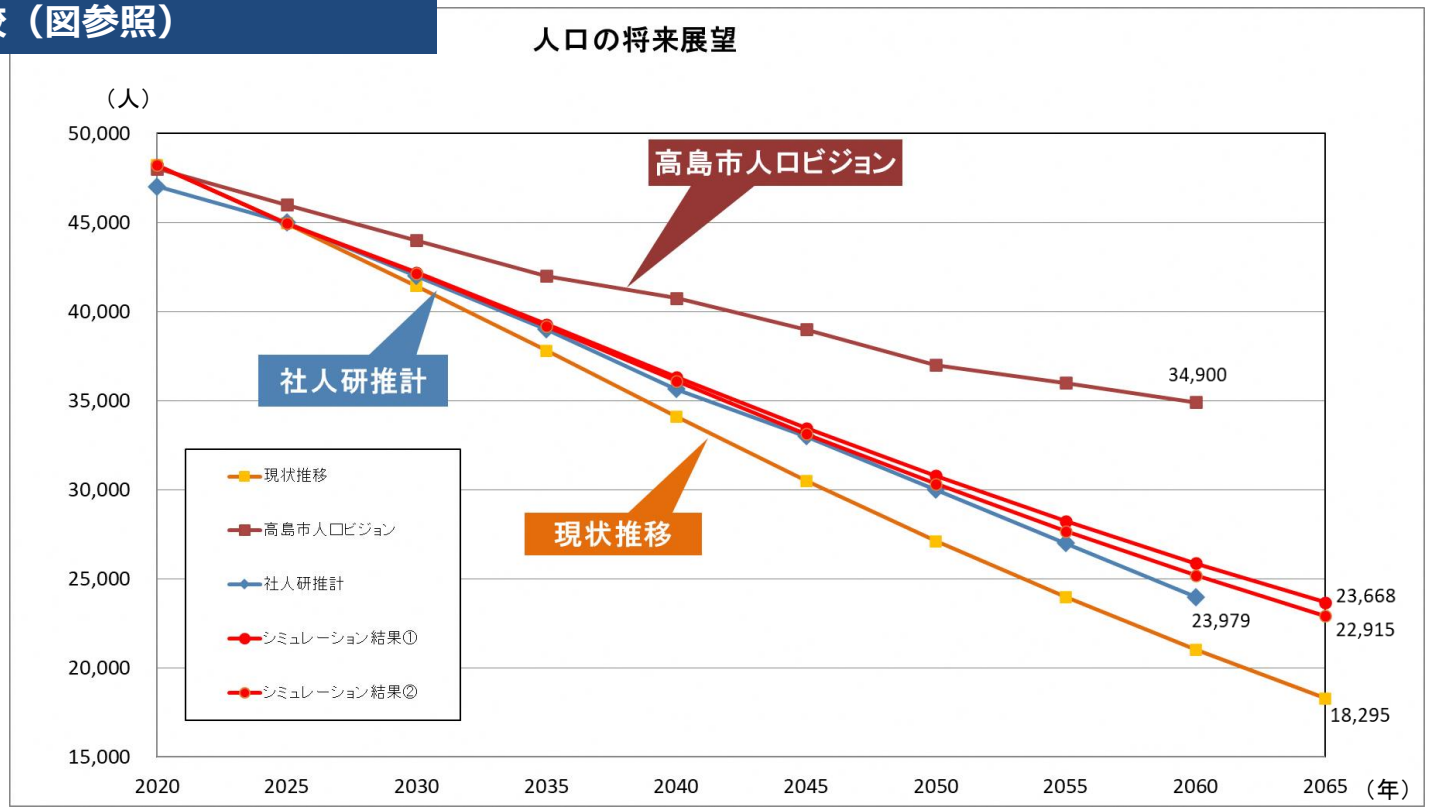
◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





7. 現状推移とシミュレーション結果の比較

◇ 結果の比較（図参照）



- ✓ 「社人研」の推計に準拠した高島市の推計では、2040年に35,645人、 2050年に30,000人、2060年には23,979人になるとされている。
- ✓ 合計特殊出生率を2040年までに国民希望出生率（1.80）程度まで上昇させ、移住施策の拡充により継続的に転入者と定住者の増加を図り、2022年以降は社会増を目指す推計（「高島市人口ビジョン」）では、2040年に40,753人、2050年に37,000人、2060年には34,900人になるとされている。
- ✓ 本シミュレーションでは前述のとおり、出生率が将来的に上昇することに加え、年代感のバランスのとれた人口構成を目指すために継続的に転入者や移住者を獲得することを目標とし、推計を行った。

8. 地域別の人口推計

8-1. マキノ地域【現状分析】

【マキノ地域の特徴】
・市の北部に位置し、滋賀県長浜市、福井県と隣接する。
・日本遺産に登録された「海津・西浜・知内の水辺景観」をはじめ、2015年度関西紅葉ランキング1位に輝いたメタセコイア並木や海津大崎の桜、マキノ高原など観光資源の豊富な地域である。
・工業団地がある。
【マキノ地域の主な施設等】
高島市役所（マキノ支所）、北部消防署マキノ救急分遣所、JRマキノ駅、JR近江中庄駅、道の駅マキノ追坂峠、市立マキノ中学校、市立マキノ東小学校、市立マキノ西小学校、市立マキノ南小学校、マキノ土に学ぶ里研修センター、マキノ図書館、マキノ病院

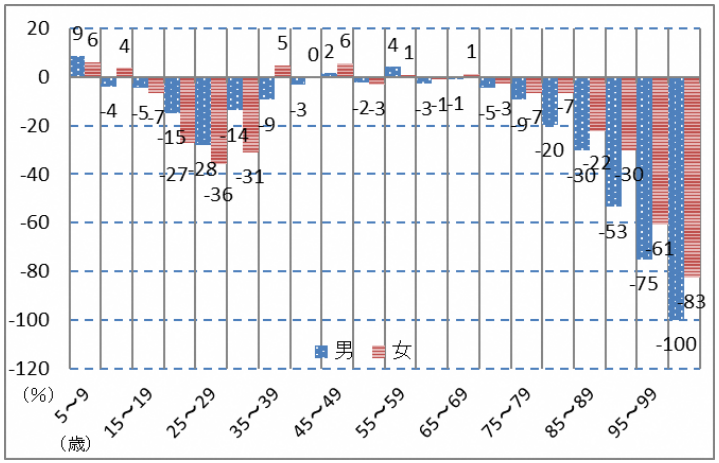
●合計特殊出生率　0.89

●高齢化率　45%

◇ 人口推移実績（マキノ地域、高島市）

	2020年		2025年（推計値）	増減	増減率
マキノ地域	**5,518**	**⇒**	**5,006**	**▲512**	**▲9.28%**
男性	2,701	⇒	2,450	▲251	▲9.29%
女性	2,817	⇒	2,556	▲261	▲9.28%
高島市	**48,200**	**⇒**	**44,949**	**▲3,251**	**▲6.74%**
男性	23,576	⇒	22,003	▲1,573	▲6.67%
女性	24,624	⇒	22,947	▲1,677	▲6.81%

◇ コーホート変化率（2020年 → 2025年）



✓ マキノ地域の人口は、5年間で512人減の見込みとなっており、減少率は9.28%である。
✓ 「45～49歳」の男女（男性2人・女性8人）で流入超過となっている。
✓ 一方で、「25～29歳」の男女（男性▲35人・女性▲31人）で流出超過となっている。

8. 地域別の人口推計

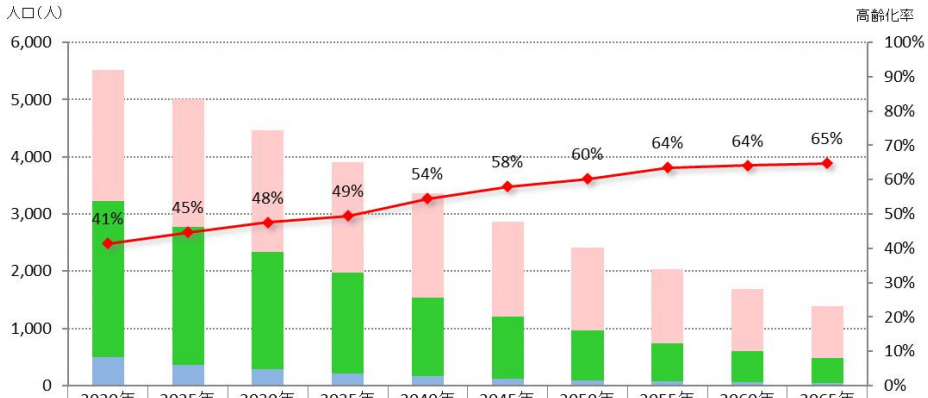
8-1. マキノ地域【現状推移】

◇ 人口推移の解説

【2025年と2065年の比較】

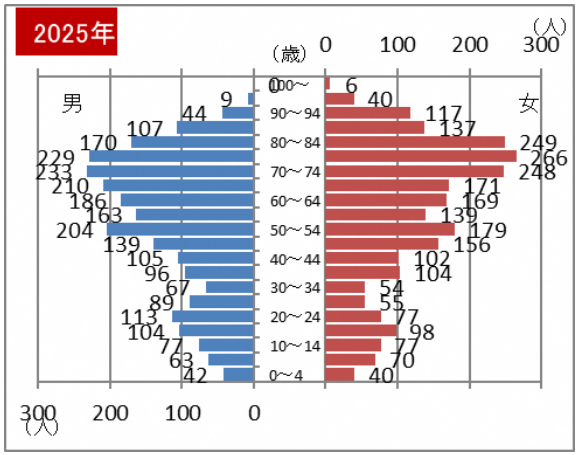
- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地域人口は5,006人が1,381人となり3,625人減少（増減率▲72.4%）
- ✓ 年少人口は369人→47人（同▲87.3%）に減少
- ✓ 生産年齢人口は2,401人→440人（同▲81.7%）に減少
- ✓ 老年人口は2,236人→895人（同▲60.0%）に減少し、高齢化率は65%まで上昇
- ✓ 児童・生徒数は274人→34人（同▲87.6%）に減少
- ✓ 15～49歳までの女性は646人→89人（同▲86.2%）に減少

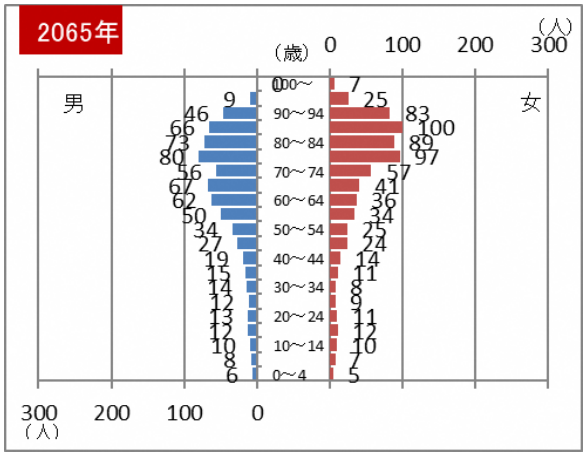
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



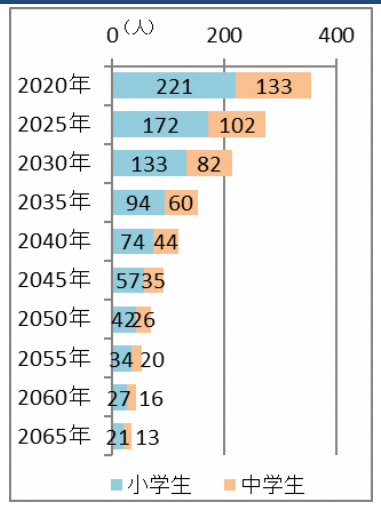
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,287	2,236	2,118	1,930	1,829	1,658	1,453	1,291	1,083	895
15～64歳	2,739	2,401	2,056	1,770	1,373	1,078	866	666	548	440
0～14歳	492	369	285	208	160	124	94	75	60	47
合計	5,518	5,006	4,459	3,909	3,363	2,860	2,413	2,032	1,690	1,381
高齢化率	41%	45%	48%	49%	54%	58%	60%	64%	64%	65%

◇ 人口ピラミッド（2025年 → 2065年）





◇ 児童・生徒数の推移



8. 地域別の人口推計

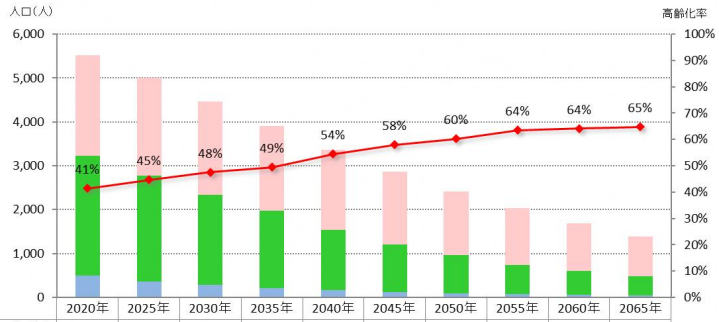
8-1. マキノ地域【シミュレーション①】

【シミュレーション想定条件】
毎年7.5人の流入
（0～4歳0.4人、5～9歳0.4人、10～14歳0.4人、15～19歳0.4人、20～24歳0.8人、25～29歳0.8人、30～34歳0.8人、35～39歳0.6人、40～44歳0.6人、45～49歳0.6人、50～54歳0.4人、55～59歳0.4人、60～64歳0.4人 、65～69歳0.4人、70～74歳0.1人）
合計特殊出生率が5年ごとに変動
（2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）
【合計　毎年7.5人（人口の0.1%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

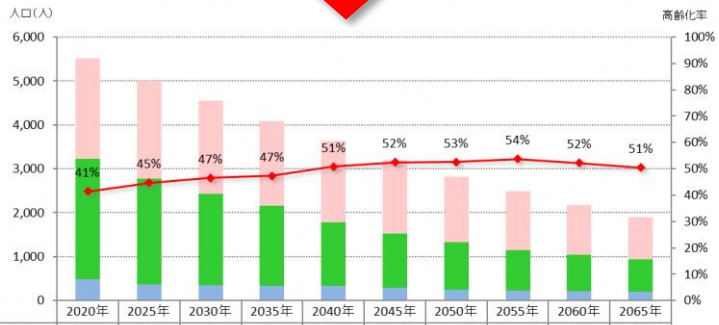
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は1,903人となり、現状推移の1,381人を522人（増減率＋37.8%）上回る。
- ✓ 年少人口は191人となり、現状推移の47人を144人（同+306.4%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は751人となり、現状推移の440人を311人（同+70.7%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は14ポイント改善し51%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,287	2,236	2,118	1,930	1,829	1,658	1,453	1,291	1,083	895
15～64歳	2,739	2,401	2,056	1,770	1,373	1,078	866	666	548	440
0～14歳	492	369	285	208	160	124	94	75	60	47
合計	5,518	5,006	4,459	3,909	3,363	2,860	2,413	2,032	1,690	1,381
高齢化率	41%	45%	48%	49%	54%	58%	60%	64%	64%	65%

＜シミュレーション結果＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,287	2,236	2,121	1,937	1,842	1,678	1,483	1,332	1,136	961
15～64歳	2,739	2,401	2,085	1,825	1,453	1,238	1,087	920	831	751
0～14歳	492	369	348	331	332	284	248	230	210	191
合計	5,518	5,006	4,554	4,094	3,627	3,201	2,818	2,483	2,178	1,903
高齢化率	41%	45%	47%	47%	51%	52%	53%	54%	52%	51%

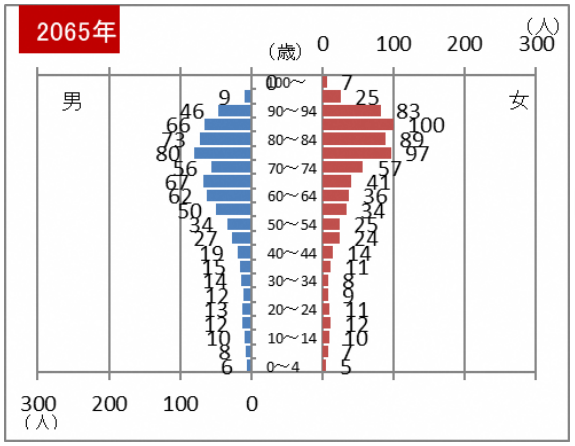
8. 地域別の人口推計

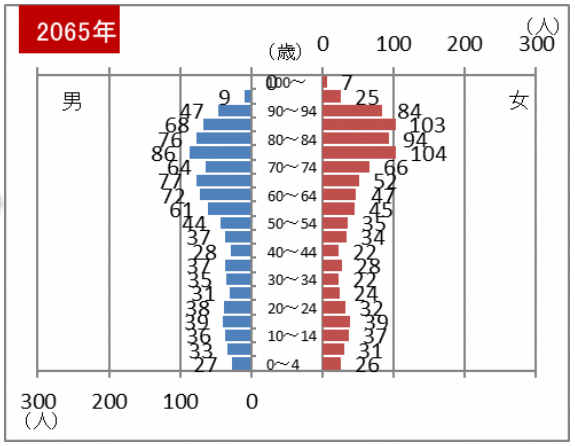
8-1マキノ地域【シミュレーション①】

◇ シミュレーション結果の解説

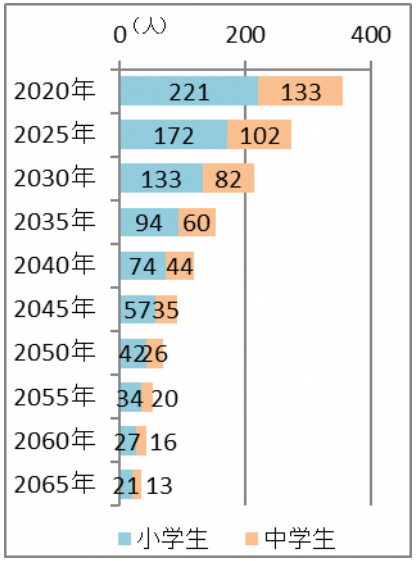
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは男女ともにほとんどの世代で人口が増加する。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が82人となり、現状推移の21人を61人（増減率+290.5%）上回り、中学生が45人となり、現状推移の13人を32人（同+246.2%）上回る。

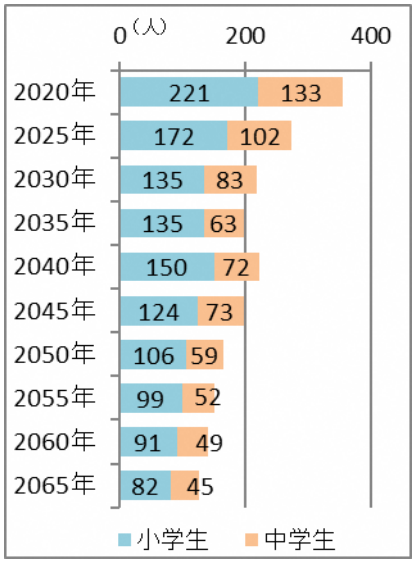
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計

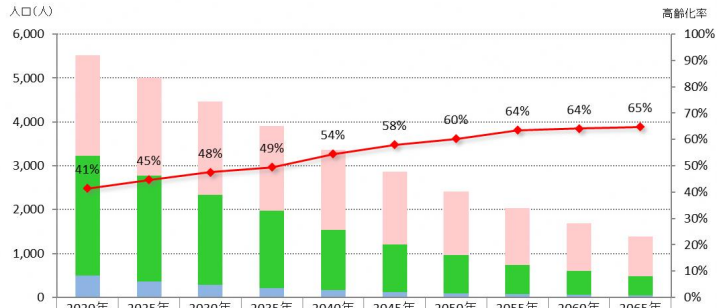
8-1. マキノ地域【シミュレーション②】

【シミュレーション想定条件】
毎年7.5人の流入
（0～4歳0.4人、5～9歳0.4人、10～14歳0.4人、15～19歳0.4人、20～24歳0.8人、25～29歳0.8人、30～34歳0.8人、35～39歳0.6人、40～44歳0.6人、45～49歳0.6人、50～54歳0.4人、55～59歳0.4人、60～64歳0.4人 、65～69歳0.4人、70～74歳0.1人）
合計特殊出生率が1.60を推移
【合計　毎年7.5人（人口の0.1%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

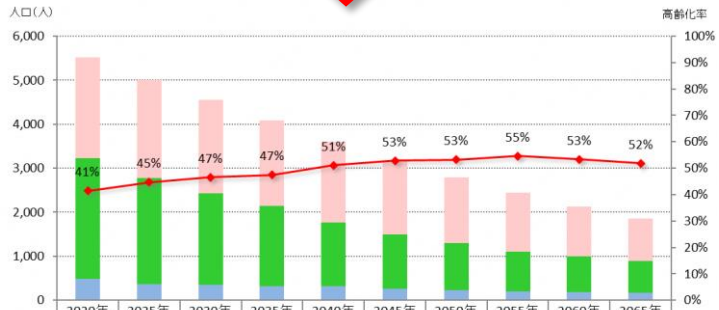
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は1,854人となり、現状推移の1,381人を473人（増減率＋34.3%）上回る。
- ✓ 年少人口は165人となり、現状推移の47人を118人（同+251.1%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は727人となり、現状推移の440人を287人（同+65.2%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は13ポイント改善し52%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,287	2,236	2,118	1,930	1,829	1,658	1,453	1,291	1,083	895
15～64歳	2,739	2,401	2,056	1,770	1,373	1,078	866	666	548	440
0～14歳	492	369	285	208	160	124	94	75	60	47
合計	5,518	5,006	4,459	3,909	3,363	2,860	2,413	2,032	1,690	1,381
高齢化率	41%	45%	48%	49%	54%	58%	60%	64%	64%	65%

＜シミュレーション結果＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,287	2,236	2,121	1,937	1,842	1,678	1,483	1,332	1,136	961
15～64歳	2,739	2,401	2,085	1,825	1,453	1,235	1,078	906	812	727
0～14歳	492	369	344	321	315	262	223	203	183	165
合計	5,518	5,006	4,550	4,084	3,610	3,174	2,783	2,442	2,132	1,854
高齢化率	41%	45%	47%	47%	51%	53%	53%	55%	53%	52%

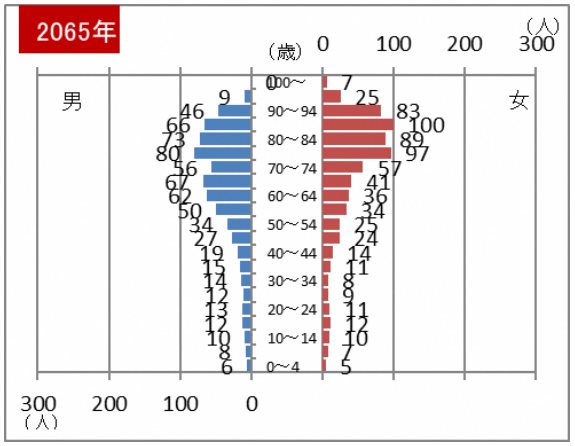
8. 地域別の人口推計

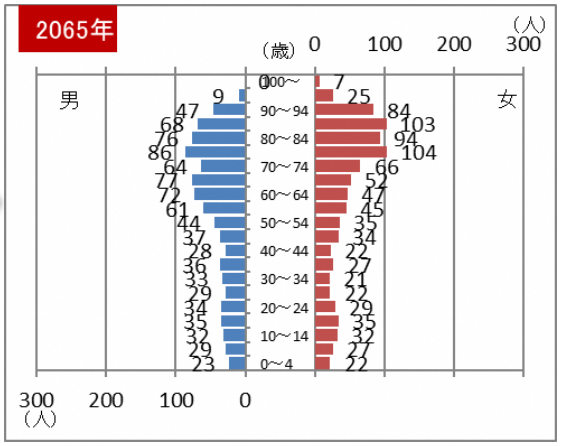
8-1マキノ地域【シミュレーション②】

◇ シミュレーション結果の解説

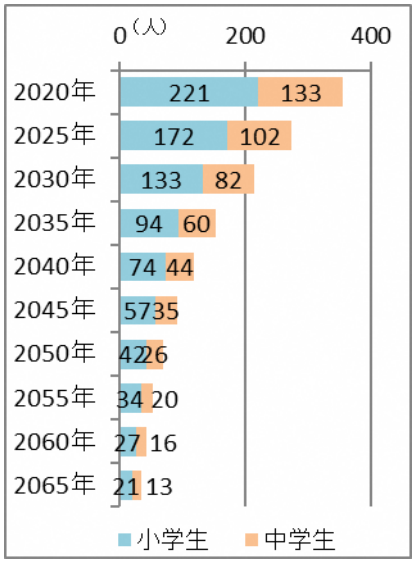
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは男女ともにほとんどの世代で人口が増加する。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が72人となり、現状推移の21人を51人（増減率＋242.9%）上回り、中学生が40人となり、現状推移の13人を27人（同+207.7%）上回る。

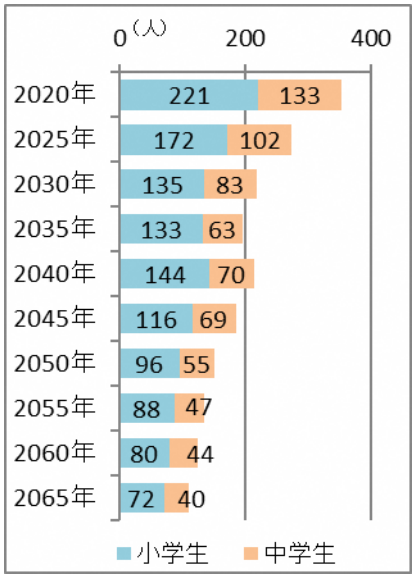
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計

8-2. 今津地域【現状分析】

【今津地域の特徴】
・市の北西部に位置し、福井県と隣接する。
・南部は、商業施設や公的機関が集積し、行政・経済の中心となる地域である。
・北部は、農地と集落が分散して立地している地域である。
・今津港から長浜市への横断航路や竹生島行きの観光船が運航し、湖上の玄関口となっている。
・近江今津駅は、市内で唯一特急サンダーバードの停車駅である。
【今津地域の主な施設等】
高島市役所（今津支所）、高島市消防本部、高島警察署、滋賀県高島合同庁舎、大津家庭裁判所高島出張所高島簡易裁判所、今津税務署、大津地方法務局高島出張所、県立高島高等学校、市立今津中学校、市立今津北小学校、市立今津東小学校、JR近江今津駅、高島市民会館、今津図書館、今津総合運動公園

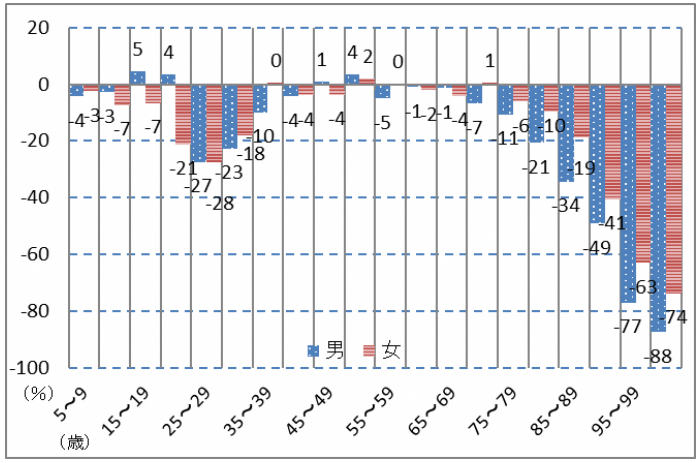
●合計特殊出生率　1.18

●高齢化率　37%

◇ 人口推移実績（今津地域、高島市）

	2020年		2025年（推計値）	増減	増減率
今津地域	**11,376**	**⇒**	**10,432**	**▲944**	**▲8.29%**
男性	5,638	⇒	5,181	▲457	▲8.10%
女性	5,738	⇒	5,251	▲487	▲8.48%
高島市	**48,200**	**⇒**	**44,949**	**▲3,251**	**▲6.74%**
男性	23,576	⇒	22,003	▲1,573	▲6.67%
女性	24,624	⇒	22,947	▲1,677	▲6.81%

◇ コーホート変化率（2020年 → 2025年）



✓ 今津地域の人口は、5年間で944人減の見込みとなっており、減少率は8.29%である。
✓ 「50～54歳」の男女（男性13人・女性7人）で流入超過となっている。
✓ 一方で、「25～29歳」の男女（男性▲96人・女性▲74人）で流出超過となっている。

8. 地域別の人口推計

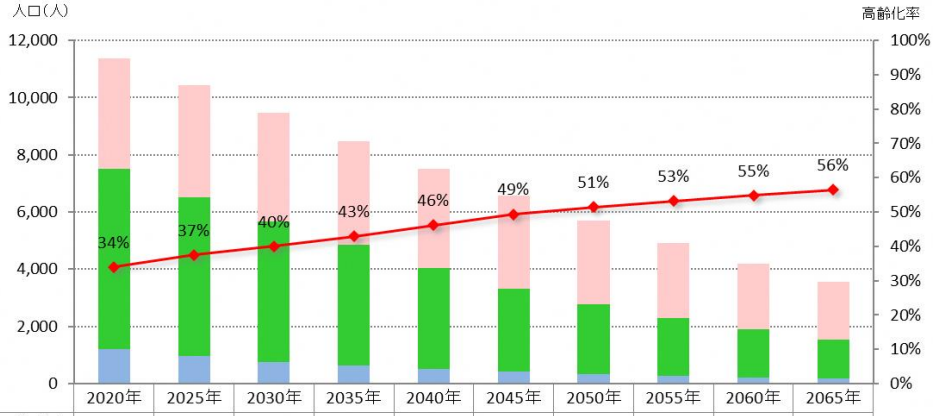
8-2. 今津地域【現状推移】

◇ 人口推移の解説

【2025年と2065年の比較】

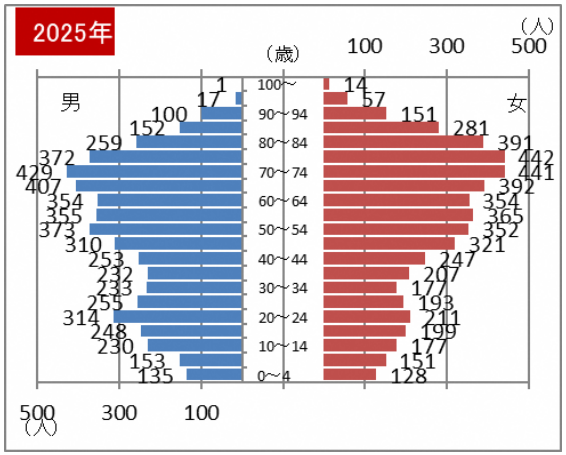
- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地域人口は10,432人が3,546人となり6,886人減少（増減率▲66.0%）
- ✓ 年少人口は975人→174人（同▲82.2%）に減少
- ✓ 生産年齢人口は5,552人→1,371人（同▲75.3%）に減少
- ✓ 老年人口は3,906人→2,001人（同▲48.8%）に減少し、高齢化率は56%まで上昇
- ✓ 児童・生徒数は679人→119人（同▲82.5%）に減少
- ✓ 15～49歳までの女性は1,555人→288人（同▲81.5%）に減少

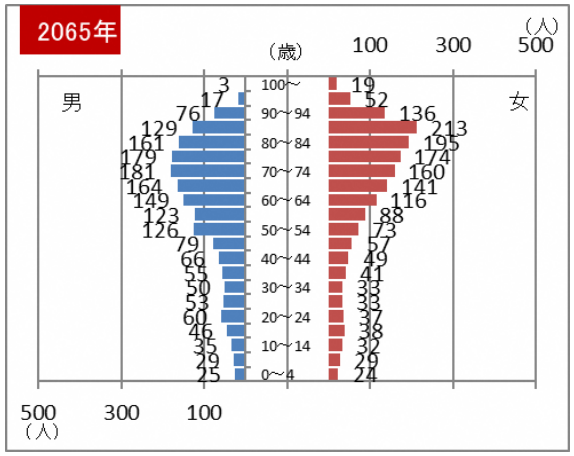
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



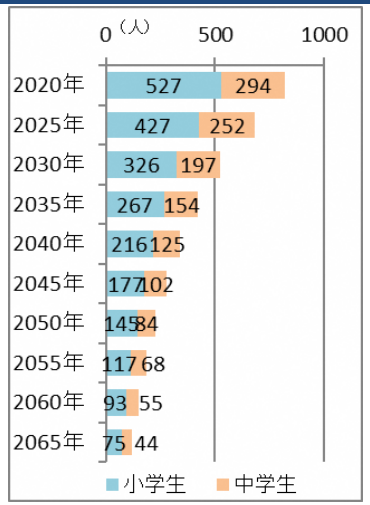
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,868	3,906	3,784	3,636	3,465	3,242	2,936	2,617	2,307	2,001
15～64歳	6,315	5,552	4,920	4,225	3,533	2,915	2,437	2,036	1,681	1,371
0～14歳	1,193	975	754	618	502	411	334	269	216	174
合計	11,376	10,432	9,458	8,479	7,500	6,568	5,707	4,922	4,203	3,546
高齢化率	34%	37%	40%	43%	46%	49%	51%	53%	55%	56%

◇ 人口ピラミッド（2025年 → 2065年）





◇ 児童・生徒数の推移



8. 地域別の人口推計

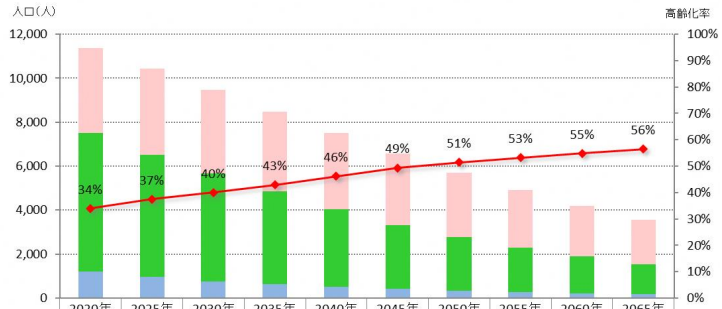
8-2. 今津地域【シミュレーション①】

【シミュレーション想定条件】
毎年16.2人の流入
（0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳1.6人、25～29歳1.6人、30～34歳1.6人、35～39歳1.4人、40～44歳1.4人、45～49歳1.4人、50～54歳0.7人、55～59歳0.7人、60～64歳0.7人 、65～69歳0.7人、70～74歳0.4人）
合計特殊出生率が5年ごとに変動
（2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）
【合計　毎年16.2人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

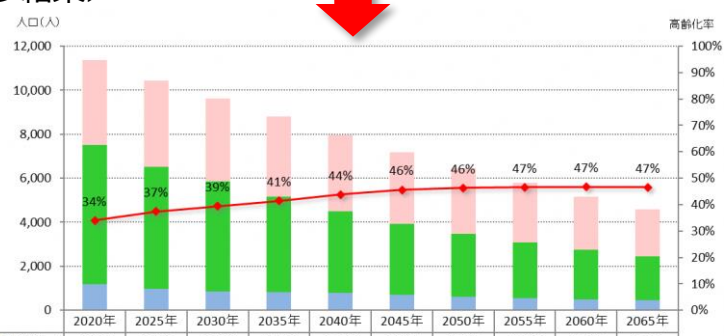
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は4,582人となり、現状推移の3,546人を1,036人（増減率＋29.2%）上回る。
- ✓ 年少人口は444人となり、現状推移の174人を270人（同+155.2%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は2,007人となり、現状推移の1,371人を636人（同+46.4%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は9ポイント改善し47%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,868	3,906	3,784	3,636	3,465	3,242	2,936	2,617	2,307	2,001
15～64歳	6,315	5,552	4,920	4,225	3,533	2,915	2,437	2,036	1,681	1,371
0～14歳	1,193	975	754	618	502	411	334	269	216	174
合計	11,376	10,432	9,458	8,479	7,500	6,568	5,707	4,922	4,203	3,546
高齢化率	34%	37%	40%	43%	46%	49%	51%	53%	55%	56%

＜シミュレーション結果＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,868	3,906	3,789	3,650	3,490	3,281	2,993	2,695	2,410	2,131
15～64歳	6,315	5,552	4,981	4,343	3,705	3,220	2,858	2,541	2,258	2,007
0～14歳	1,193	975	858	814	780	691	615	549	490	444
合計	11,376	10,432	9,627	8,807	7,975	7,192	6,466	5,786	5,157	4,582
高齢化率	34%	37%	39%	41%	44%	46%	46%	47%	47%	47%

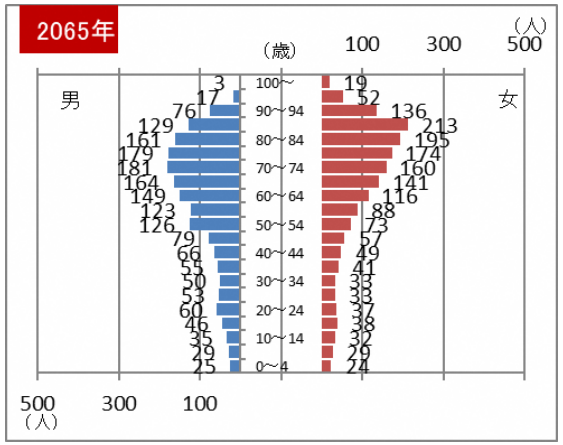
8. 地域別の人口推計

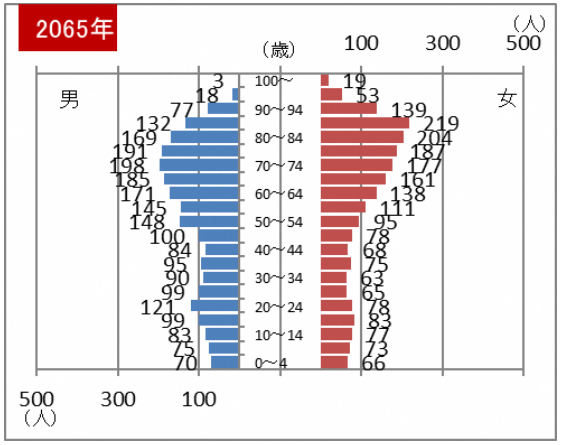
8-2今津地域【シミュレーション①】

◇ シミュレーション結果の解説

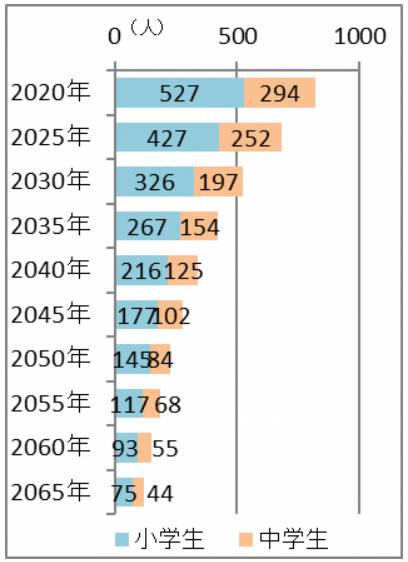
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは男女ともにほとんどの世代で人口が増加する。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が185人となり、現状推移の75人を110人（増減率＋146.7%）上回り、中学生が100人となり、現状推移の44人を56人（同＋127.3%）上回る。

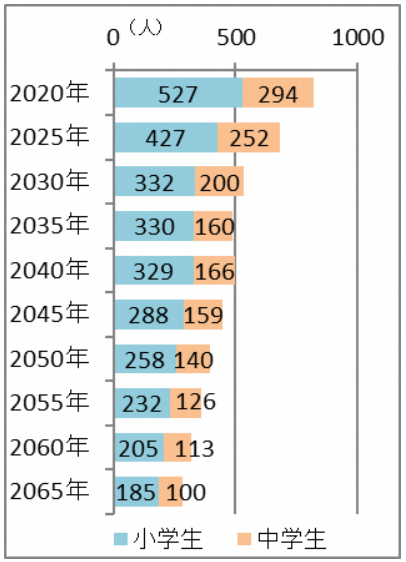
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計

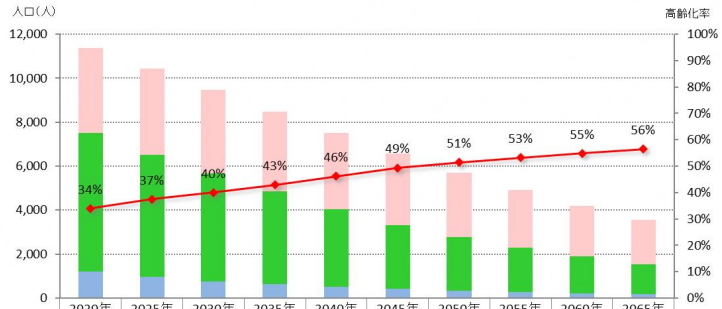
8-2. 今津地域【シミュレーション②】

【シミュレーション想定条件】
毎年16.2人の流入
（0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳1.6人、25～29歳1.6人、30～34歳1.6人、35～39歳1.4人、40～44歳1.4人、45～49歳1.4人、50～54歳0.7人、55～59歳0.7人、60～64歳0.7人 、65～69歳0.7人、70～74歳0.4人）
合計特殊出生率が1.60を推移
【合計　毎年16.2人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

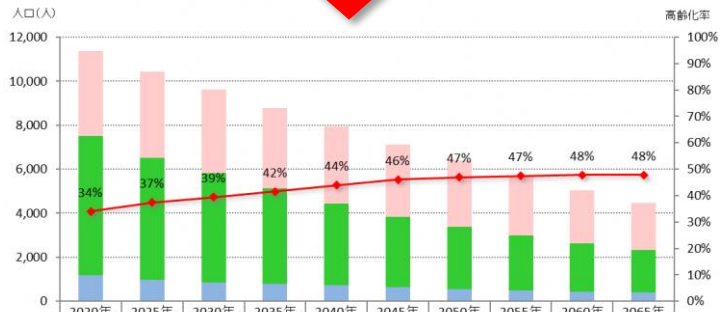
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は4,459人となり、現状推移の3,546人を913人（増減率＋25.7%）上回る。
- ✓ 年少人口は384人となり、現状推移の174人を210人（同+120.7%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は1,944人となり、現状推移の1,371人を573人（同+41.8%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は8ポイント改善し48%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,868	3,906	3,784	3,636	3,465	3,242	2,936	2,617	2,307	2,001
15～64歳	6,315	5,552	4,920	4,225	3,533	2,915	2,437	2,036	1,681	1,371
0～14歳	1,193	975	754	618	502	411	334	269	216	174
合計	11,376	10,432	9,458	8,479	7,500	6,568	5,707	4,922	4,203	3,546
高齢化率	34%	37%	40%	43%	46%	49%	51%	53%	55%	56%

＜シミュレーション結果＞



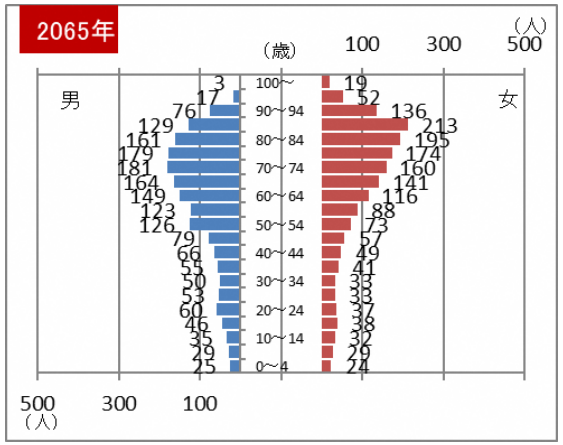
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,868	3,906	3,789	3,650	3,490	3,281	2,993	2,695	2,410	2,131
15～64歳	6,315	5,552	4,981	4,343	3,705	3,212	2,836	2,505	2,206	1,944
0～14歳	1,193	975	849	790	738	634	552	485	429	384
合計	11,376	10,432	9,618	8,783	7,933	7,127	6,382	5,686	5,045	4,459
高齢化率	34%	37%	39%	42%	44%	46%	47%	47%	48%	48%

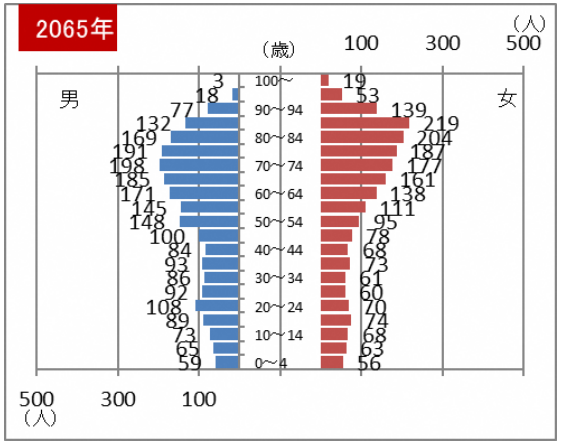
8. 地域別の人口推計
8-2今津地域【シミュレーション②】

◇ シミュレーション結果の解説

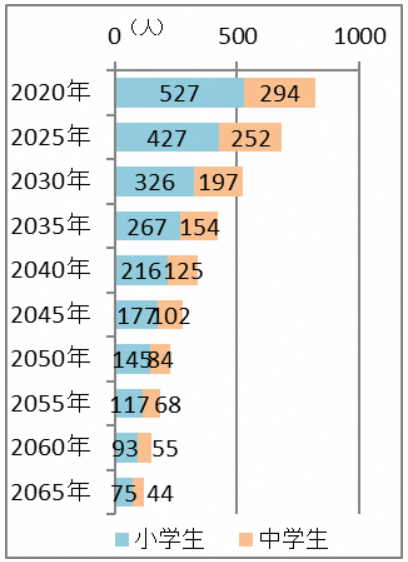
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは男女ともにほとんどの世代で人口が増加する。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が161人となり、現状推移の75人を86人（増減率＋114.7%）上回り、中学生が89人となり、現状推移の44人を45人（同＋102.3%）上回る。

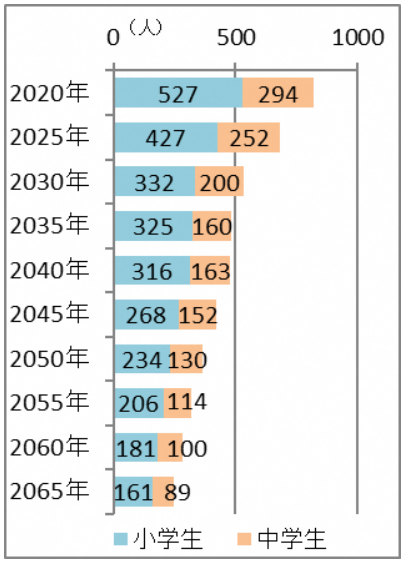
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計
8-3. 新旭地域【現状分析】

【新旭地域の特徴】
・市の中心部に位置する。
・高島ちぢみ、高島帆布といった繊維業が盛んな地域である。
・高島市役所本庁の所在地である。
・新旭駅近くには、比較的新しい住宅が多く立地している。
【新旭地域の主な施設等】
高島市役所（本庁）、高島市観光物産プラザ、道の駅しんあさひ風車村、JR新旭駅、市立湖西中学校、市立新旭北小学校、市立新旭南小学校、レーク滋賀農業協同組合高島地区統括本部、公益社団法人びわ湖高島観光協会、新旭図書館、県立新旭養護学校

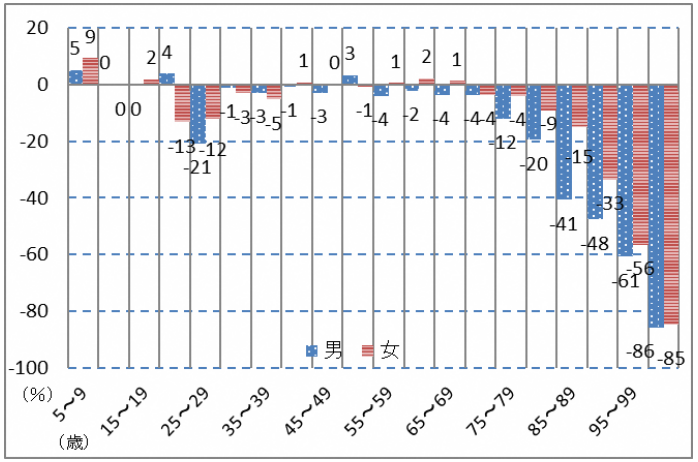
●合計特殊出生率　1.29

●高齢化率　32%

◇ 人口推移実績（新旭地域、高島市）

	2020年		2025年（推計値）	増減	増減率
新旭地域	**10,893**	**⇒**	**10,481**	**▲412**	**▲3.79%**
男性	5,361	⇒	5,135	▲226	▲4.22%
女性	5,532	⇒	5,346	▲186	▲3.37%
高島市	**48,200**	**⇒**	**44,949**	**▲3,251**	**▲6.74%**
男性	23,576	⇒	22,003	▲1,573	▲6.67%
女性	24,624	⇒	22,947	▲1,677	▲6.81%

◇ コーホート変化率（2020年 → 2025年）



✓ 新旭地域の人口は、5年間で412人減の見込みとなっており、減少率は3.79%である。
✓ 「20~24歳」の男（11人）で流入超過となっている。
✓ 一方で、「25~29歳」の男女（男性▲62人・女性▲30人）で流出超過となっている。

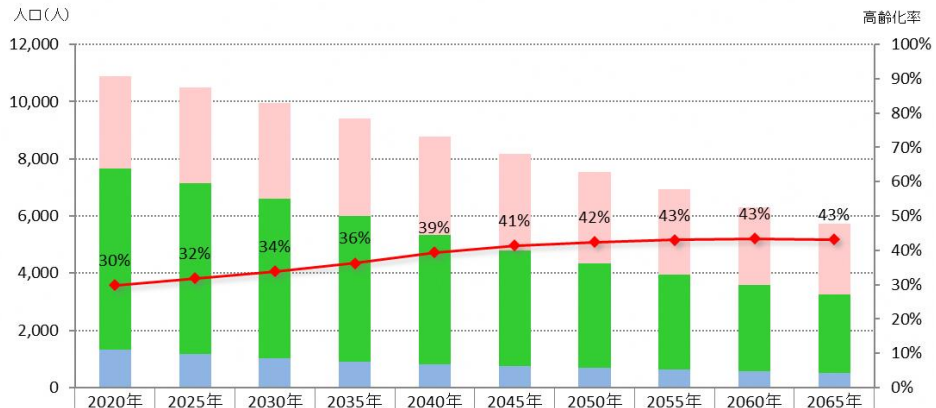
8. 地域別の人口推計
8-3. 新旭町【現状推移】

◇ 人口推移の解説

【2025年と2065年の比較】

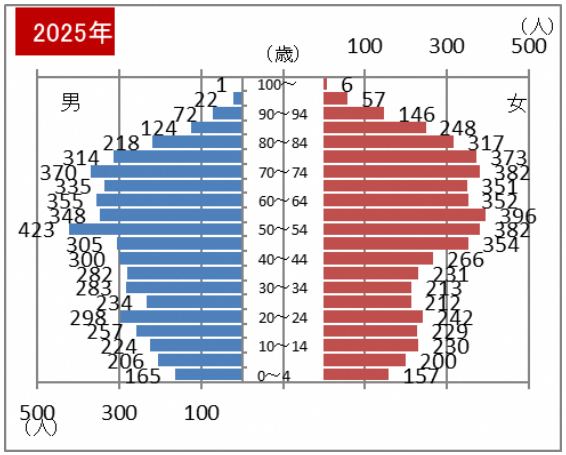
- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地域人口は10,481人が5,720人となり4,761人減少（増減率▲45.4%）
- ✓ 年少人口は1,182人→507人（同▲57.1%）に減少
- ✓ 生産年齢人口は5,961人→2,742人（同▲54.0%）に減少
- ✓ 老年人口は3,338人→2,471人（同▲26.0%）に減少し、高齢化率は43%まで上昇
- ✓ 児童・生徒数は795人→336人（同▲57.7%）に減少
- ✓ 15～49歳までの女性は1,747人→783人（同▲55.2%）に減少

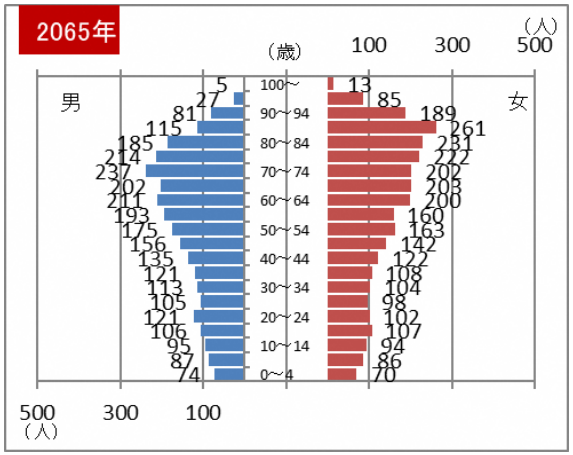
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



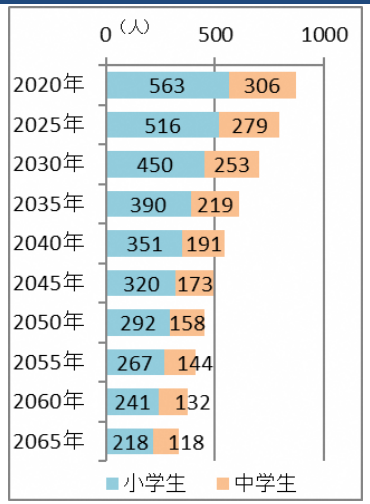
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,244	3,338	3,375	3,410	3,461	3,377	3,194	2,979	2,738	2,471
15～64歳	6,332	5,961	5,555	5,075	4,503	4,037	3,661	3,325	3,014	2,742
0～14歳	1,317	1,182	1,035	911	822	751	686	622	563	507
合計	10,893	10,481	9,965	9,395	8,785	8,165	7,540	6,926	6,315	5,720
高齢化率	30%	32%	34%	36%	39%	41%	42%	43%	43%	43%

◇ 人口ピラミッド（2025年 → 2065年）





◇ 児童・生徒数の推移



8. 地域別の人口推計

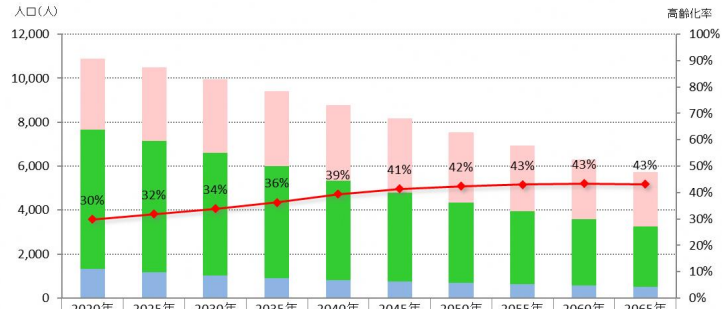
8-3. 新旭地域【シミュレーション①】

【シミュレーション想定条件】
毎年16.2人の流入
（0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳1.6人、25～29歳1.6人、30～34歳1.6人、35～39歳1.4人、40～44歳1.4人、45～49歳1.4人、50～54歳0.7人、55～59歳0.7人、60～64歳0.7人 、65～69歳0.7人、70～74歳0.4人）
合計特殊出生率が5年ごとに変動
（2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）
【合計　毎年16.2人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

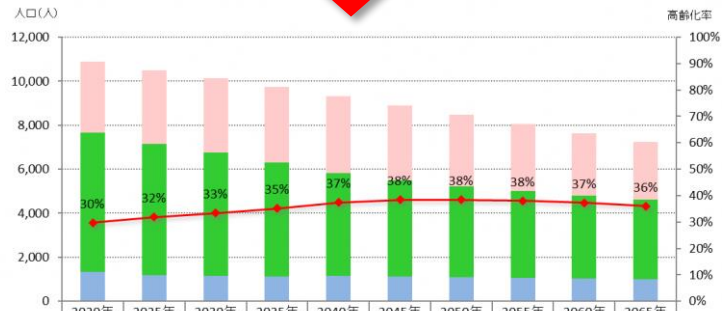
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は7,231人となり、現状推移の5,720人を1,511人（増減率＋26.4%）上回る。
- ✓ 年少人口は985人となり、現状推移の507人を478人（同+94.3%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は3,639人となり、現状推移の2,742人を897人（同+32.7%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は7ポイント改善し36%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,244	3,338	3,375	3,410	3,461	3,377	3,194	2,979	2,738	2,471
15～64歳	6,332	5,961	5,555	5,075	4,503	4,037	3,661	3,325	3,014	2,742
0～14歳	1,317	1,182	1,035	911	822	751	686	622	563	507
合計	10,893	10,481	9,965	9,395	8,785	8,165	7,540	6,926	6,315	5,720
高齢化率	30%	32%	34%	36%	39%	41%	42%	43%	43%	43%

＜シミュレーション結果＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,244	3,338	3,381	3,424	3,486	3,416	3,251	3,059	2,844	2,606
15～64歳	6,332	5,961	5,615	5,195	4,683	4,370	4,143	3,941	3,773	3,639
0～14歳	1,317	1,182	1,136	1,123	1,148	1,114	1,084	1,055	1,018	985
合計	10,893	10,481	10,132	9,742	9,317	8,900	8,478	8,054	7,635	7,231
高齢化率	30%	32%	33%	35%	37%	38%	38%	38%	37%	36%

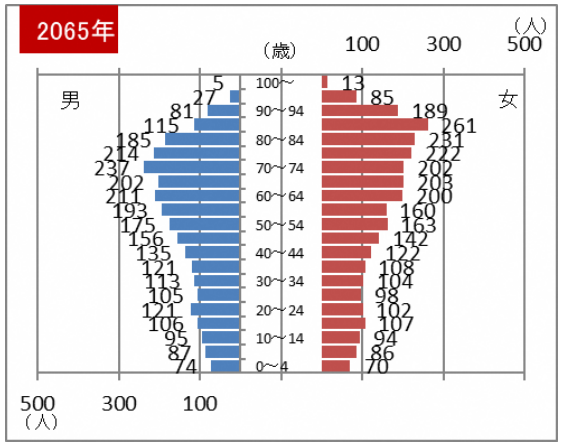
8. 地域別の人口推計

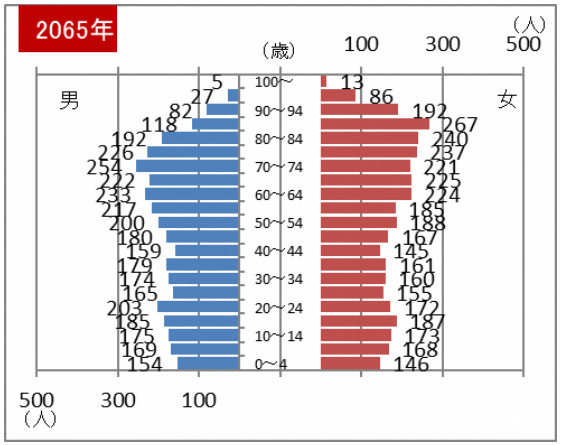
8-3新旭地域【シミュレーション①】

◇ シミュレーション結果の解説

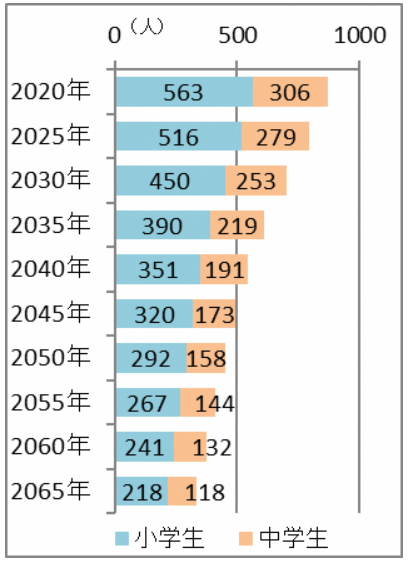
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは男女ともに40歳以下の男女で増加がみられ、人口ピラミッドが安定する。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が411人となり、現状推移の218人を193人（増減率+88.5%）上回り、中学生が214人となり、現状推移の118人を96人（同+81.4%）上回る。

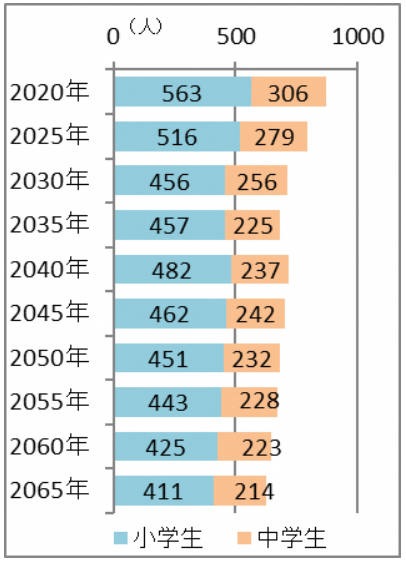
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計

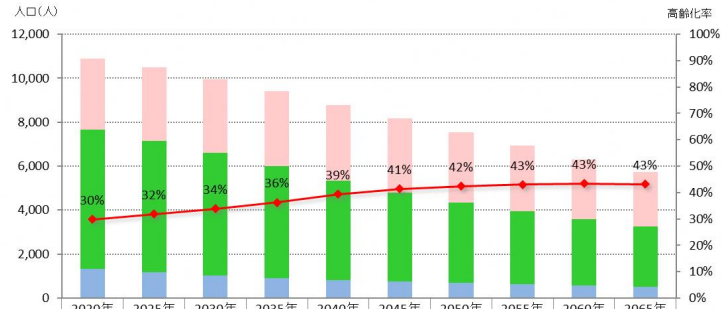
8-3. 新旭地域【シミュレーション②】

【シミュレーション想定条件】
毎年16.2人の流入
（0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳1.6人、25～29歳1.6人、30～34歳1.6人、35～39歳1.4人、40～44歳1.4人、45～49歳1.4人、50～54歳0.7人、55～59歳0.7人、60～64歳0.7人 、65～69歳0.7人、70～74歳0.4人）
合計特殊出生率が1.60を推移
【合計　毎年16.2人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

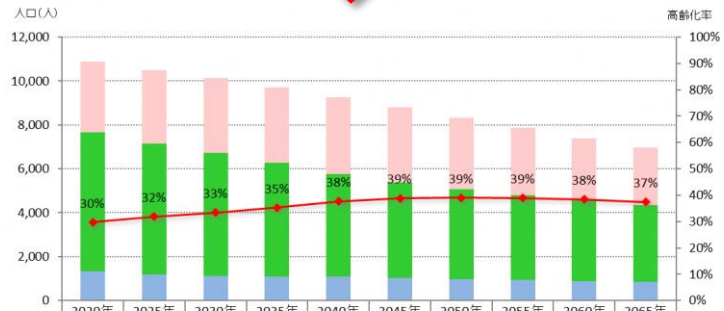
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は6,957人となり、現状推移の5,720人を1,237人（増減率＋21.6%）上回る。
- ✓ 年少人口は845人となり、現状推移の507人を338人（同+66.7%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は3,505人となり、現状推移の2,742人を763人（同+27.8%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は6ポイント改善し37%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,244	3,338	3,375	3,410	3,461	3,377	3,194	2,979	2,738	2,471
15～64歳	6,332	5,961	5,555	5,075	4,503	4,037	3,661	3,325	3,014	2,742
0～14歳	1,317	1,182	1,035	911	822	751	686	622	563	507
合計	10,893	10,481	9,965	9,395	8,785	8,165	7,540	6,926	6,315	5,720
高齢化率	30%	32%	34%	36%	39%	41%	42%	43%	43%	43%

＜シミュレーション結果＞



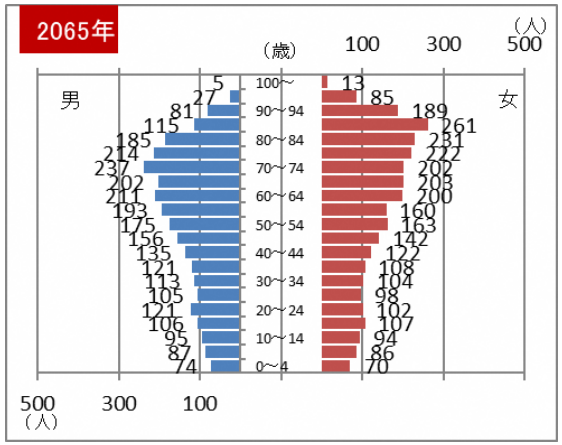
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,244	3,338	3,381	3,424	3,486	3,416	3,251	3,059	2,844	2,606
15～64歳	6,332	5,961	5,615	5,195	4,683	4,358	4,109	3,878	3,674	3,505
0～14歳	1,317	1,182	1,125	1,090	1,085	1,021	971	928	886	845
合計	10,893	10,481	10,121	9,709	9,254	8,795	8,331	7,866	7,404	6,957
高齢化率	30%	32%	33%	35%	38%	39%	39%	39%	38%	37%

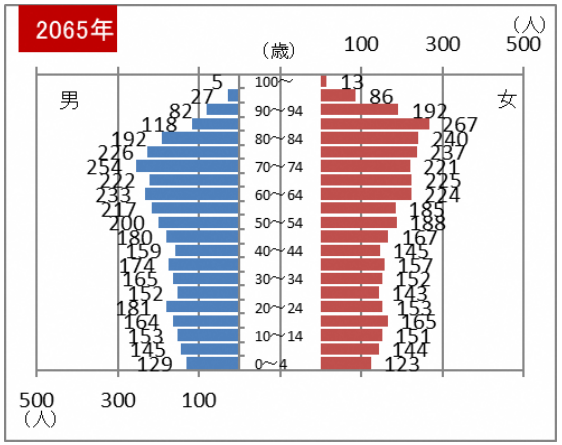
8. 地域別の人口推計
8-3新旭地域【シミュレーション②】

◇ シミュレーション結果の解説

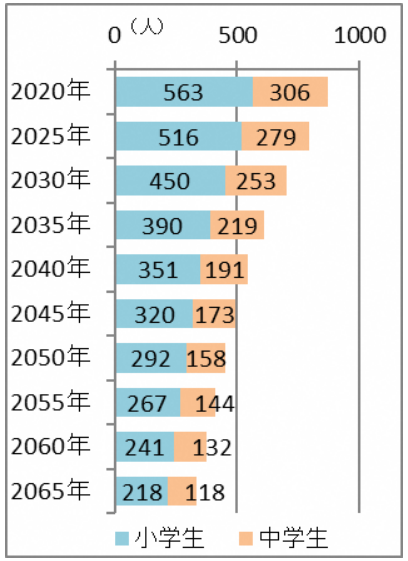
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは男女ともに40歳以下の男女で増加がみられ、人口ピラミッドが安定する。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が356人となり、現状推移の218人を138人（増減率+63.3%）上回り、中学生が187人となり、現状推移の118人を69人（同+58.5%）上回る。

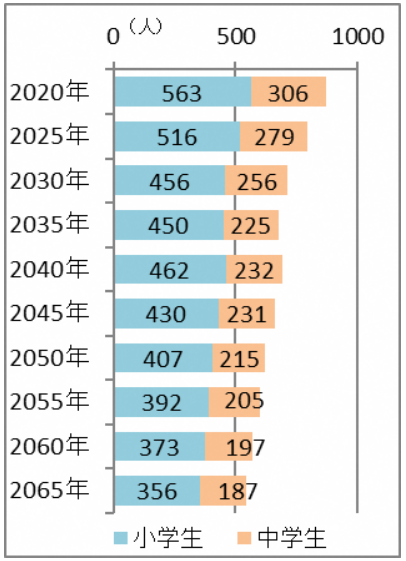
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計

8-4. 安曇川地域【現状分析】

【安曇川地域の特徴】
・市の中心部に位置する。
・全国シェア90%を誇る扇骨の生産地である。
・国道沿いを中心に各種商業施設が所在し、経済の中心となる地域である。
【安曇川地域の主な施設等】
高島市役所（安曇川支所）、南部消防署、県立安曇川高等学校、市立安曇川中学校、市立安曇小学校、市立青柳小学校、高島市商工会、JR安曇川駅、安曇川図書館、道の駅藤樹の里あどがわ、藤樹の里文化芸術会館

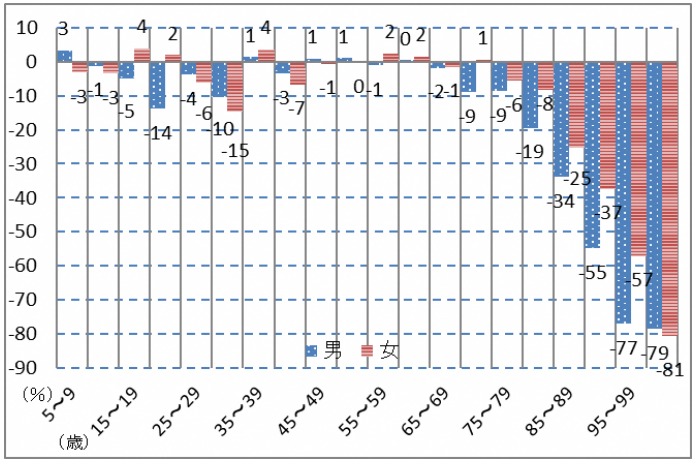
●合計特殊出生率　1.32

●高齢化率　36%

◇ 人口推移実績（安曇川地域、高島市）

	2020年		2025年（推計値）	増減	増減率
安曇川地域	**12,696**	**⇒**	**12,038**	**▲658**	**▲5.18%**
男性	6,170	⇒	5,842	▲328	▲5.31%
女性	6,526	⇒	6,195	▲331	▲5.07%
高島市	**48,200**	**⇒**	**44,949**	**▲3,251**	**▲6.74%**
男性	23,576	⇒	22,003	▲1,573	▲6.67%
女性	24,624	⇒	22,947	▲1,677	▲6.81%

◇ コーホート変化率（2020年 → 2025年）



- ✓ 安曇川地域の人口は、5年間で658人減の見込みとなっており、減少率は5.18%である。
- ✓ 「35~39歳」の男女（男性5人・女性12人）で流入超過となっている。
- ✓ 一方で、「30~34歳」の男女（男性▲30人・女性▲38人）で流出超過となっている。

8. 地域別の人口推計

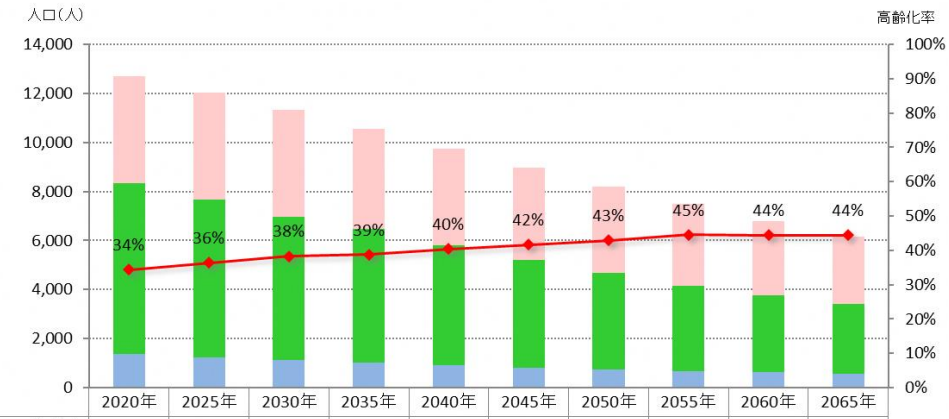
8-4. 安曇川地域【現状推移】

◇ 人口推移の解説

【2025年と2065年の比較】

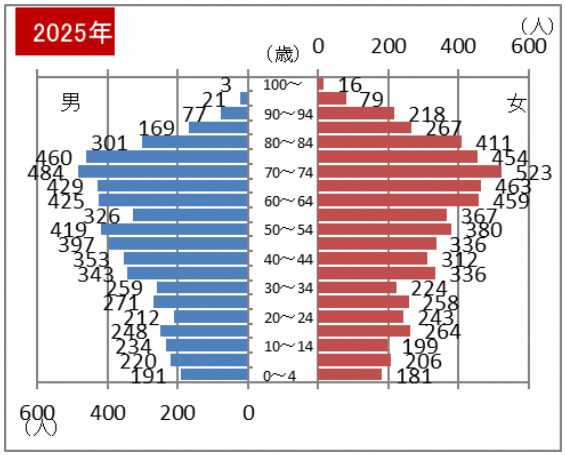
- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地域人口は12,038人が6,156人となり5,882人減少（増減率▲48.9%）
- ✓ 年少人口は1,231人→564人（同▲54.2%）に減少
- ✓ 生産年齢人口は6,432人→2,860人（同▲55.5%）に減少
- ✓ 老年人口は4,375人→2,732人（同▲37.6%）に減少し、高齢化率は44%まで上昇
- ✓ 児童・生徒数は791人→363人（同▲54.1%）に減少
- ✓ 15～49歳までの女性は1,973人→905人（同▲54.1%）に減少

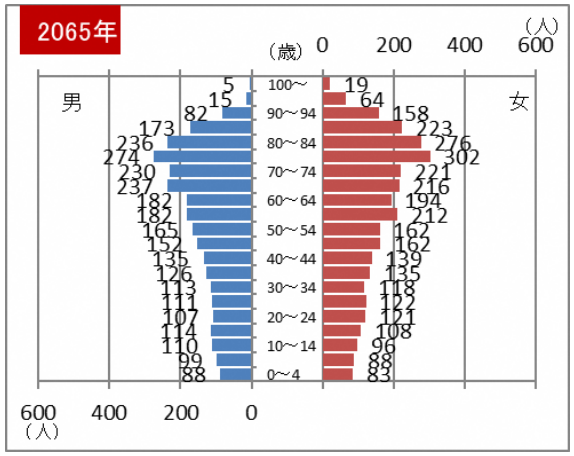
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



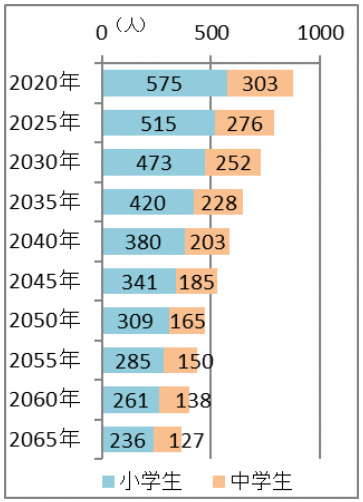
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	4,361	4,375	4,333	4,083	3,933	3,731	3,511	3,329	3,019	2,732
15～64歳	6,951	6,432	5,853	5,463	4,910	4,403	3,934	3,463	3,158	2,860
0～14歳	1,384	1,231	1,124	1,005	904	819	744	685	622	564
合計	12,696	12,038	11,311	10,552	9,747	8,954	8,189	7,477	6,799	6,156
高齢化率	34%	36%	38%	39%	40%	42%	43%	45%	44%	44%

◇ 人口ピラミッド（2025年 → 2065年）





◇ 児童・生徒数の推移



8. 地域別の人口推計

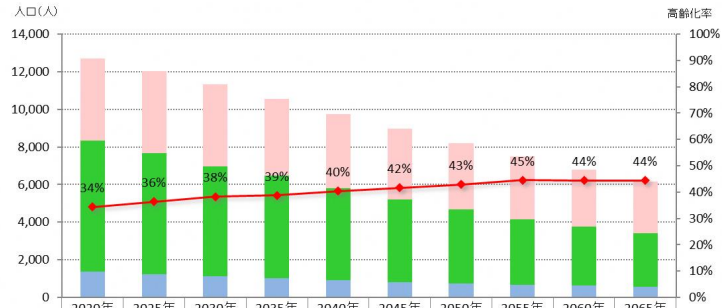
8-4. 安曇川地域【シミュレーション①】

【シミュレーション想定条件】
毎年18.8人の流入
（0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳2人、25～29歳2人、30～34歳2人、35～39歳1.6人、40～44歳1.6人、45～49歳1.6人、50～54歳0.9人、55～59歳0.9人、60～64歳0.9人 、65～69歳0.9人、70～74歳0.4人）
合計特殊出生率が5年ごとに変動
（2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）
【合計　毎年18.8人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

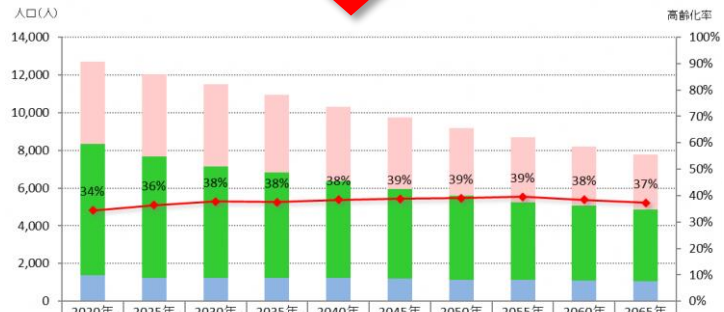
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は7,770人となり、現状推移の6,156人を1,614人（増減率＋26.2%）上回る。
- ✓ 年少人口は1,057人となり、現状推移の564人を493人（同+87.4%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は3,816人となり、現状推移の2,860人を956人（同+33.4%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は7ポイント改善し37%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	4,361	4,375	4,333	4,083	3,933	3,731	3,511	3,329	3,019	2,732
15～64歳	6,951	6,432	5,853	5,463	4,910	4,403	3,934	3,463	3,158	2,860
0～14歳	1,384	1,231	1,124	1,005	904	819	744	685	622	564
合計	12,696	12,038	11,311	10,552	9,747	8,954	8,189	7,477	6,799	6,156
高齢化率	34%	36%	38%	39%	40%	42%	43%	45%	44%	44%

＜シミュレーション結果＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	4,361	4,375	4,340	4,100	3,964	3,780	3,583	3,428	3,148	2,896
15～64歳	6,951	6,432	5,926	5,607	5,123	4,772	4,455	4,130	3,971	3,816
0～14歳	1,384	1,231	1,230	1,223	1,232	1,185	1,146	1,126	1,088	1,057
合計	12,696	12,038	11,495	10,930	10,319	9,738	9,184	8,683	8,207	7,770
高齢化率	34%	36%	38%	38%	38%	39%	39%	39%	38%	37%

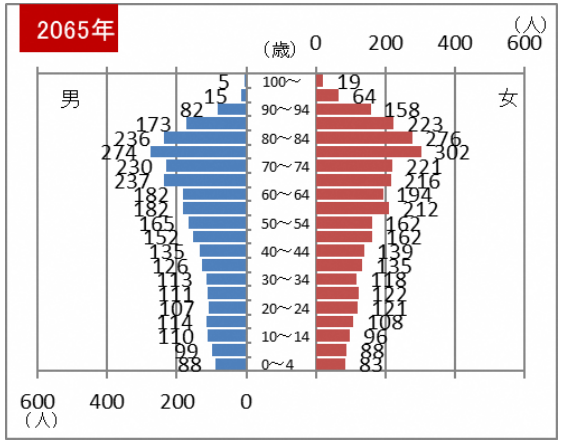
8. 地域別の人口推計

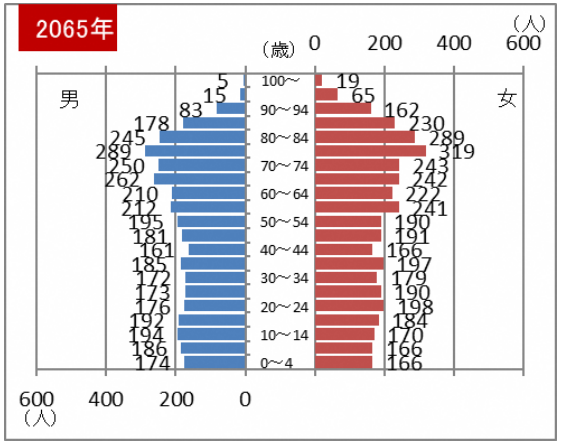
8-4安曇川地域【シミュレーション①】

◇ シミュレーション結果の解説

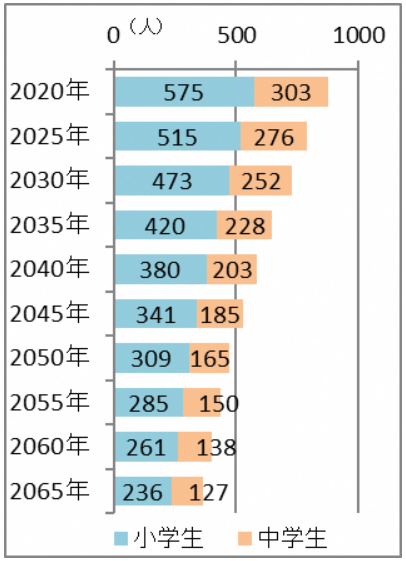
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは男女ともに50歳以下の男女で増加がみられ、人口ピラミッドが安定する。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が430人となり、現状推移の236人を194人（増減率+82.2%）上回り、中学生が221人となり、現状推移の127人を94人（同+74.0%）上回る。

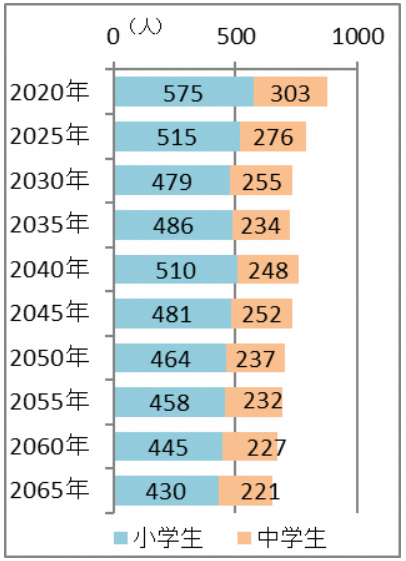
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計

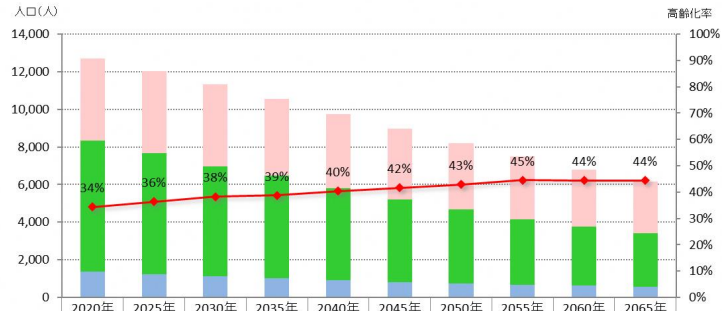
8-4. 安曇川地域【シミュレーション②】

【シミュレーション想定条件】
毎年18.8人の流入
（0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳2人、25～29歳2人、30～34歳2人、35～39歳1.6人、40～44歳1.6人、45～49歳1.6人、50～54歳0.9人、55～59歳0.9人、60～64歳0.9人 、65～69歳0.9人、70～74歳0.4人）
合計特殊出生率が1.60を推移
【合計　毎年18.8人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

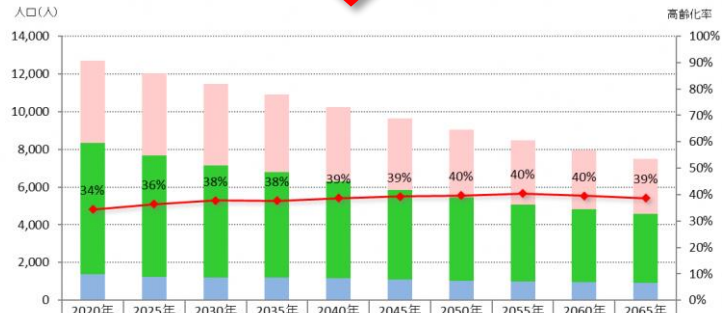
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は7,481人となり、現状推移の6,156人を1,325人（増減率＋21.5%）上回る。
- ✓ 年少人口は907人となり、現状推移の564人を343人（同+60.8%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は3,677人となり、現状推移の2,860人を817人（同+28.6%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は5ポイント改善し39%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	4,361	4,375	4,333	4,083	3,933	3,731	3,511	3,329	3,019	2,732
15～64歳	6,951	6,432	5,853	5,463	4,910	4,403	3,934	3,463	3,158	2,860
0～14歳	1,384	1,231	1,124	1,005	904	819	744	685	622	564
合計	12,696	12,038	11,311	10,552	9,747	8,954	8,189	7,477	6,799	6,156
高齢化率	34%	36%	38%	39%	40%	42%	43%	45%	44%	44%

＜シミュレーション結果＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	4,361	4,375	4,340	4,100	3,964	3,780	3,583	3,428	3,148	2,896
15～64歳	6,951	6,432	5,926	5,607	5,123	4,760	4,420	4,065	3,868	3,677
0～14歳	1,384	1,231	1,217	1,186	1,163	1,086	1,026	991	947	907
合計	12,696	12,038	11,482	10,893	10,250	9,626	9,029	8,484	7,964	7,481
高齢化率	34%	36%	38%	38%	39%	39%	40%	40%	40%	39%

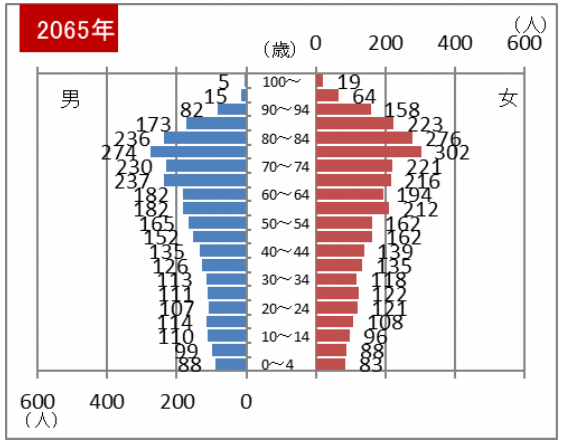
8. 地域別の人口推計

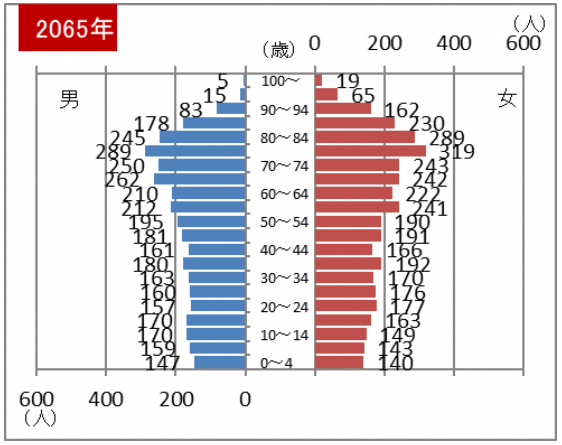
8-4安曇川地域【シミュレーション②】

◇ シミュレーション結果の解説

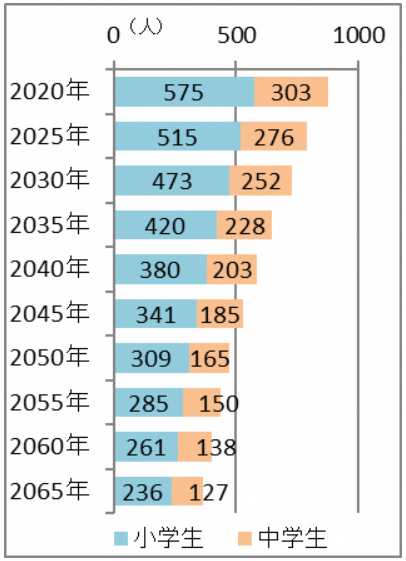
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは男女ともに50歳以下の男女で増加がみられ、人口ピラミッドが安定する。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が372人となり、現状推移の236人を136人（増減率+57.6%）上回り、中学生が194人となり、現状推移の127人を67人（同+52.8%）上回る。

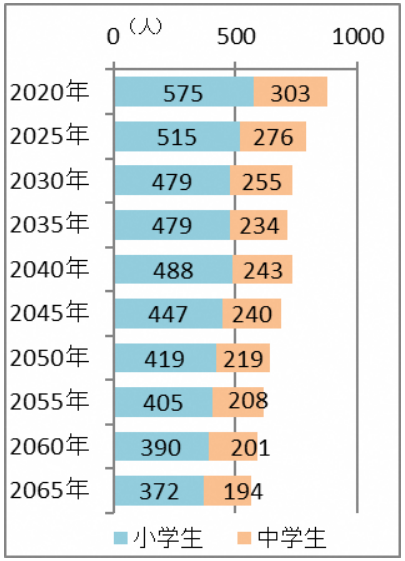
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計
8-5. 高島地域【現状分析】

【高島地域の特徴】
・市の南に位置し、滋賀県大津市と隣接する。
・日本遺産に登録された「大溝の水辺景観」や白鬚神社（近江最古）、旧城下町の町並みが保存されている。
・畑の棚田は、「日本の棚田百選」に選ばれている。
【高島地域の主な施設等】
高島市役所（高島支所）、高島市民病院、市立高島中学校、市立高島小学校、JR近江高島駅、高島B&G海洋センター、高島市生涯学習センター「アイリッシュパーク」、高島図書館

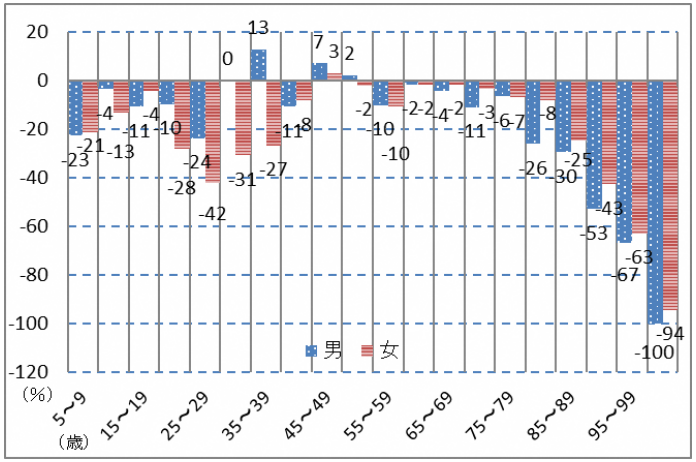
●合計特殊出生率　1.07

●高齢化率　40%

◇ 人口推移実績（高島地域、高島市）

	2020年		2025年（推計値）	増減	増減率
高島地域	**6,032**	**⇒**	**5,554**	**▲478**	**▲7.93%**
男性	2,885	⇒	2,667	▲218	▲7.56%
女性	3,147	⇒	2,887	▲260	▲8.27%
高島市	**48,200**	**⇒**	**44,949**	**▲3,251**	**▲6.74%**
男性	23,576	⇒	22,003	▲1,573	▲6.67%
女性	24,624	⇒	22,947	▲1,677	▲6.81%

◇ コーホート変化率（2020年 → 2025年）



✓ 高島地域の人口は、5年間で478人減の見込みとなっており、減少率は7.93%である。
✓ 「40～44歳」の男女（男性4人・女性9人）で流入超過となっている。
✓ 一方で、「25～29歳」の男女（男性▲35人・女性▲34人）で流出超過となっている。

8. 地域別の人口推計

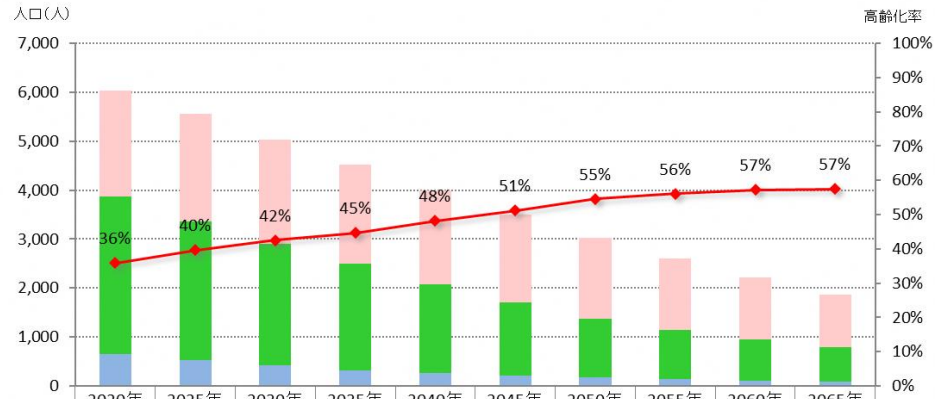
8-5. 高島地域【現状推移】

◇ 人口推移の解説

【2025年と2065年の比較】

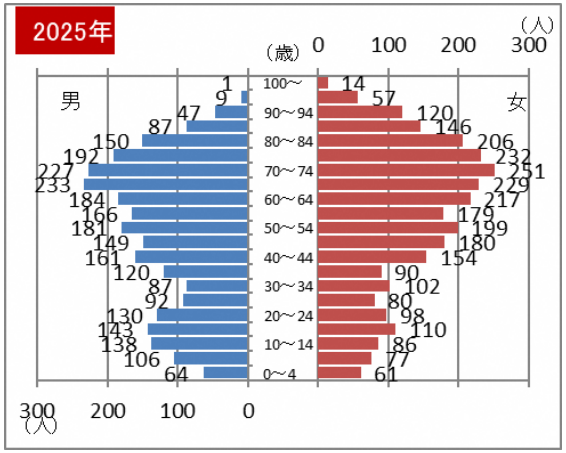
- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地域人口は5,554人が1,869人となり3,685人減少（増減率▲66.3%）
- ✓ 年少人口は531人→85人（同▲84.0%）に減少
- ✓ 生産年齢人口は2,822人→710人（同▲74.8%）に減少
- ✓ 老年人口は2,200人→1,074人（同▲51.2%）に減少し、高齢化率は57%まで上昇
- ✓ 児童・生徒数は384人→62人（同▲83.9%）に減少
- ✓ 15～49歳までの女性は814人→135人（同▲83.4%）に減少

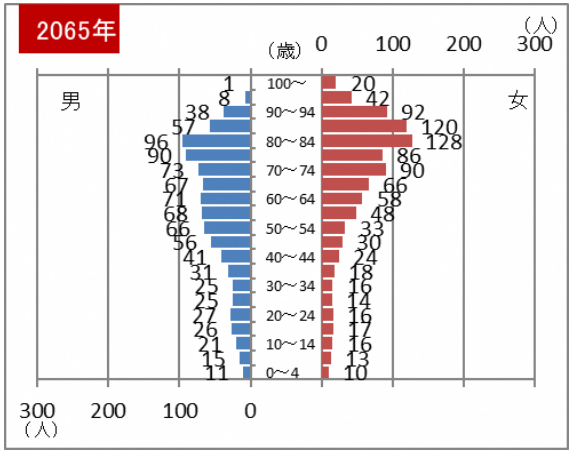
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



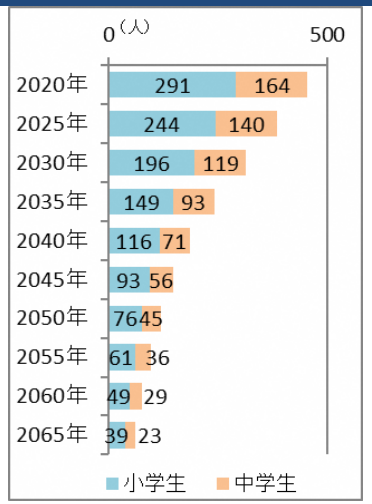
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,164	2,200	2,141	2,018	1,926	1,788	1,652	1,460	1,268	1,074
15～64歳	3,217	2,822	2,473	2,171	1,811	1,500	1,207	1,010	843	710
0～14歳	651	531	424	324	257	206	167	133	106	85
合計	6,032	5,554	5,038	4,513	3,995	3,493	3,027	2,603	2,217	1,869
高齢化率	36%	40%	42%	45%	48%	51%	55%	56%	57%	57%

◇ 人口ピラミッド（2025年 → 2065年）





◇ 児童・生徒数の推移



8. 地域別の人口推計

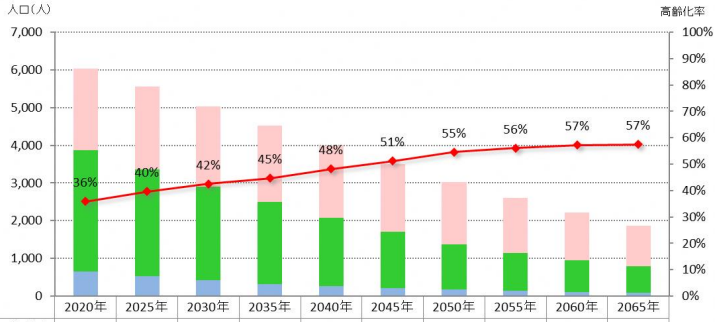
8-5. 高島地域【シミュレーション①】

【シミュレーション想定条件】
毎年9.2人の流入
（0～4歳0.5人、5～9歳0.5人、10～14歳0.5人、15～19歳0.5人、20～24歳1人、25～29歳1人、30～34歳1人、35～39歳0.8人、40～44歳0.8人、45～49歳0.8人、50～54歳0.4人、55～59歳0.4人、60～64歳0.4人 、65～69歳0.4人、70～74歳0.2人）
合計特殊出生率が5年ごとに変動
（2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）
【合計　毎年9.2人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は2,509人となり、現状推移の1,869人を640人（増減率＋34.2%）上回る。
- ✓ 年少人口は257人となり、現状推移の85人を172人（同+202.4%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は1,102人となり、現状推移の710人を392人（同+55.2%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は11ポイント改善し46%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,164	2,200	2,141	2,018	1,926	1,788	1,652	1,460	1,268	1,074
15～64歳	3,217	2,822	2,473	2,171	1,811	1,500	1,207	1,010	843	710
0～14歳	651	531	424	324	257	206	167	133	106	85
合計	6,032	5,554	5,038	4,513	3,995	3,493	3,027	2,603	2,217	1,869
高齢化率	36%	40%	42%	45%	48%	51%	55%	56%	57%	57%

＜シミュレーション結果＞

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,164	2,200	2,144	2,025	1,940	1,810	1,685	1,505	1,327	1,149
15～64歳	3,217	2,822	2,509	2,239	1,911	1,691	1,468	1,320	1,198	1,102
0～14歳	651	531	488	450	444	387	348	315	283	257
合計	6,032	5,554	5,140	4,715	4,295	3,888	3,501	3,139	2,808	2,509
高齢化率	36%	40%	42%	43%	45%	47%	48%	48%	47%	46%

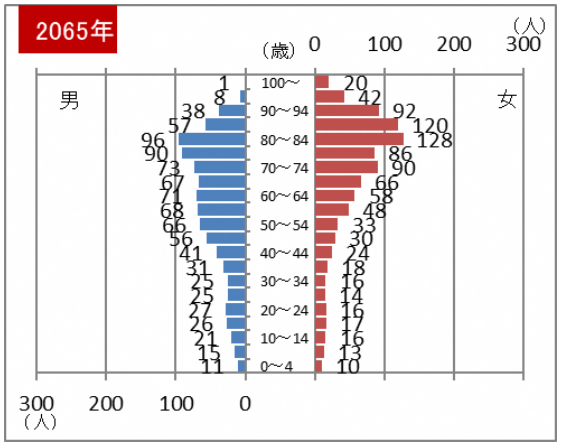
8. 地域別の人口推計

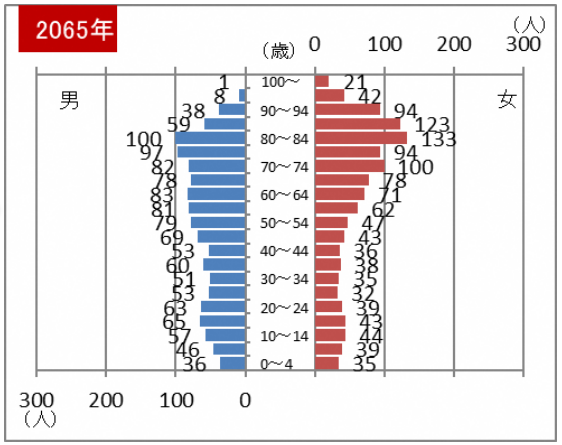
8-5高島地域【シミュレーション①】

◇ シミュレーション結果の解説

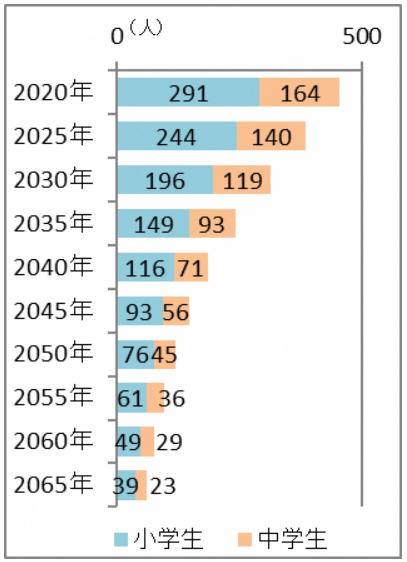
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは20歳以下で若干の改善がみられる。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が112人となり、現状推移の39人を73人（増減率+187.2%）上回り、中学生が62人となり、現状推移の23人を39人（同+169.6%）上回る。

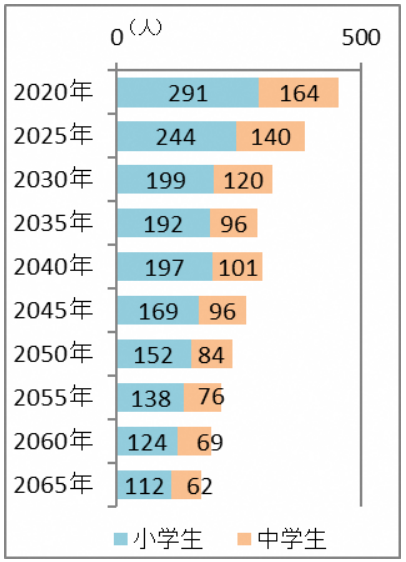
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計

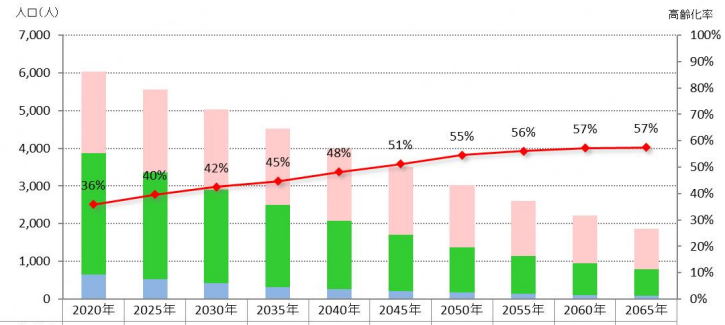
8-5. 高島地域【シミュレーション②】

【シミュレーション想定条件】
毎年9.2人の流入
（0～4歳0.5人、5～9歳0.5人、10～14歳0.5人、15～19歳0.5人、20～24歳1人、25～29歳1人、30～34歳1人、35～39歳0.8人、40～44歳0.8人、45～49歳0.8人、50～54歳0.4人、55～59歳0.4人、60～64歳0.4人 、65～69歳0.4人、70～74歳0.2人）
合計特殊出生率が1.60を推移
【合計　毎年9.2人（人口の0.2%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

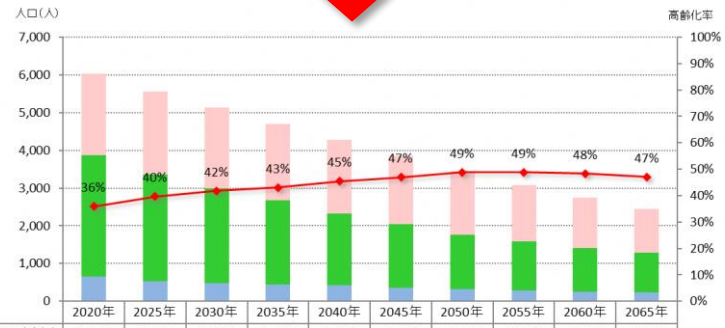
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は2,439人となり、現状推移の1,869人を570人（増減率＋30.5%）上回る。
- ✓ 年少人口は223人となり、現状推移の85人を138人（同+162.4%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は1,067人となり、現状推移の710人を357人（同+50.3%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は10ポイント改善し47%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,164	2,200	2,141	2,018	1,926	1,788	1,652	1,460	1,268	1,074
15～64歳	3,217	2,822	2,473	2,171	1,811	1,500	1,207	1,010	843	710
0～14歳	651	531	424	324	257	206	167	133	106	85
合計	6,032	5,554	5,038	4,513	3,995	3,493	3,027	2,603	2,217	1,869
高齢化率	36%	40%	42%	45%	48%	51%	55%	56%	57%	57%

＜シミュレーション結果＞



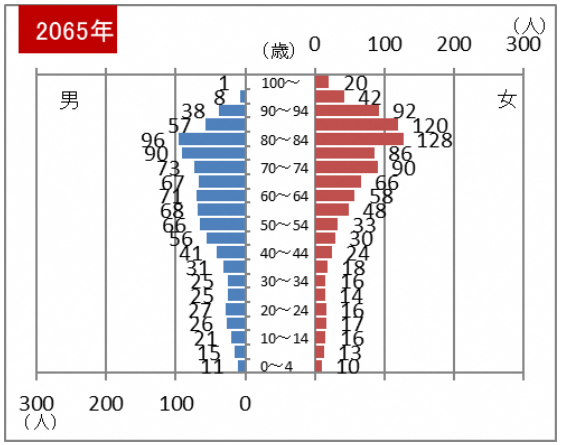
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	2,164	2,200	2,144	2,025	1,940	1,810	1,685	1,505	1,327	1,149
15～64歳	3,217	2,822	2,509	2,239	1,911	1,686	1,456	1,300	1,169	1,067
0～14歳	651	531	483	438	421	356	313	278	248	223
合計	6,032	5,554	5,136	4,703	4,272	3,852	3,453	3,083	2,744	2,439
高齢化率	36%	40%	42%	43%	45%	47%	49%	49%	48%	47%

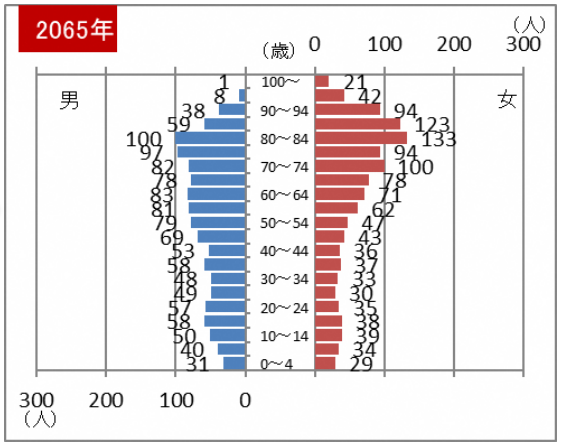
8. 地域別の人口推計
8-5高島地域【シミュレーション②】

◇ シミュレーション結果の解説

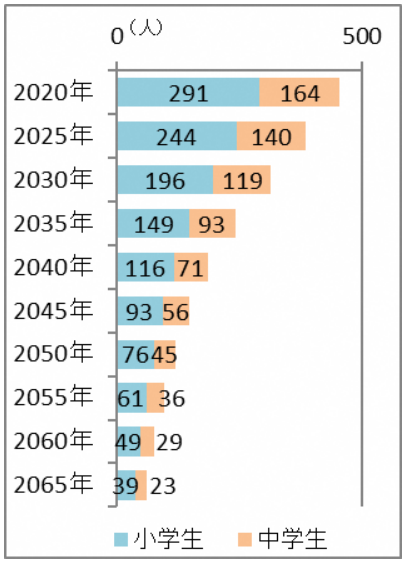
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは20歳以下で若干の改善がみられる。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が98人となり、現状推移の39人を59人（増減率+151.3%）上回り、中学生が55人となり、現状推移の23人を32人（同+139.1%）上回る。

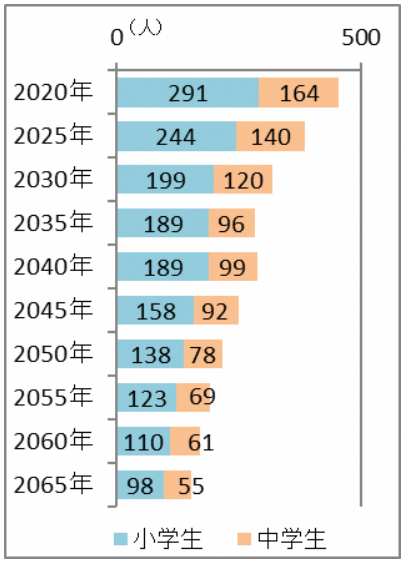
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計
8-6. 朽木地域【現状分析】

【朽木地域の特徴】
・市の西部に位置し、滋賀県大津市、京都府、福井県と隣接する。
・地区の大半を山林が占める。
・戦国時代から江戸時代にかけて、若狭から京都へ鯖を運ぶための重要な交通路があり、鯖街道と呼ばれている。
・高島市で唯一琵琶湖に面していない地域である。
【朽木地域の主な施設等】
高島市役所（朽木支所）、北部消防署朽木分遣所、高島市民病院朽木診療所、市立朽木中学校、市立朽木東小学校、市立朽木西小学校、道の駅くつき新本陣、朽木図書サロン

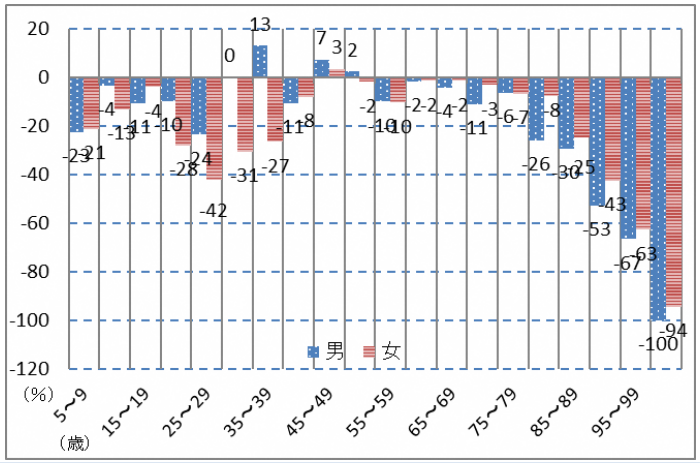
●合計特殊出生率　1.12

●高齢化率　49%

◇ 人口推移実績（朽木地域、高島市）

	2020年		2025年（推計値）	増減	増減率
朽木地域	**1,685**	**⇒**	**1,453**	**▲232**	**▲13.76%**
男性	821	⇒	732	▲89	▲10.87%
女性	864	⇒	721	▲143	▲16.51%
高島市	**48,200**	**⇒**	**44,949**	**▲3,251**	**▲6.74%**
男性	23,576	⇒	22,003	▲1,573	▲6.67%
女性	24,624	⇒	22,947	▲1,677	▲6.81%

◇ コーホート変化率（2020年 → 2025年）



✓ 朽木地域の人口は、5年間で232人減の見込みとなっており、減少率は13.76%である。
✓ 「45～49歳」の男女（男性2人・女性1人）で流入超過となっている。
✓ 一方で、「25～29歳」の男女（男性▲8人・女性▲14人）で流出超過となっている。

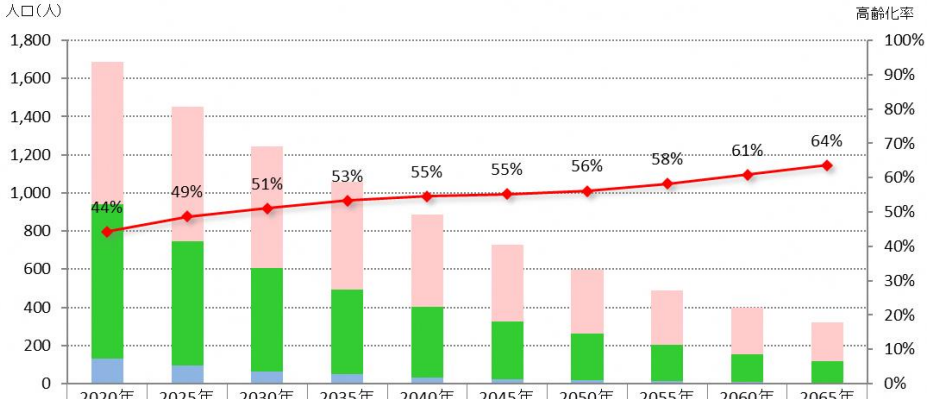
8. 地域別の人口推計
8-6. 朽木地域【現状推移】

◇ 人口推移の解説

【2025年と2065年の比較】

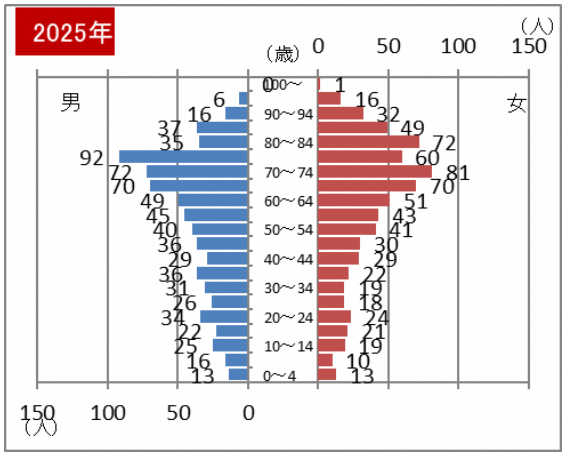
- ✓ 現状の流出入状況で推移した場合、地域人口は1,453人が323人となり1,130人減少（増減率▲77.8%）
- ✓ 年少人口は97人→6人（同▲93.8%）に減少
- ✓ 生産年齢人口は648人→112人（同▲82.7%）に減少
- ✓ 老年人口は708人→206人（同▲70.9%）に減少し、高齢化率は64%まで上昇
- ✓ 児童・生徒数は68人→5人（同▲92.6%）に減少
- ✓ 15～49歳までの女性は163人→9人（同▲94.5%）に減少

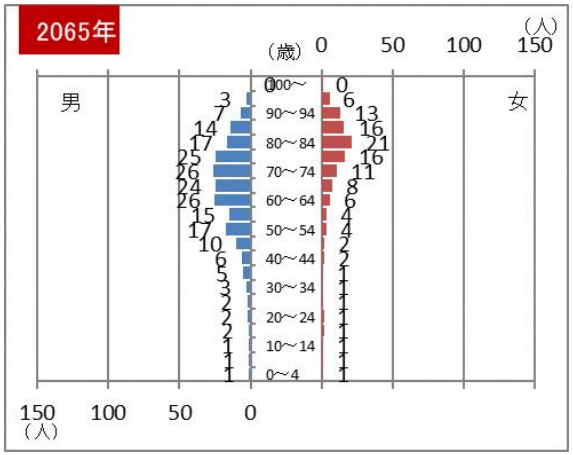
◇ 将来推計人口と高齢化比率の推移



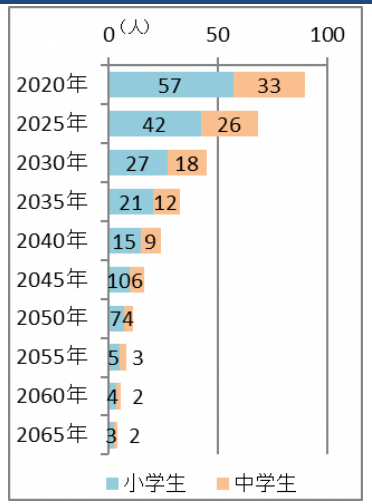
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	746	708	635	564	483	403	335	283	241	206
15～64歳	810	648	544	447	368	304	246	192	147	112
0～14歳	129	97	65	47	34	23	16	12	8	6
合計	1,685	1,453	1,244	1,058	885	730	597	487	396	323
高齢化率	44%	49%	51%	53%	55%	55%	56%	58%	61%	64%

◇ 人口ピラミッド（2025年 → 2065年）





◇ 児童・生徒数の推移



8. 地域別の人口推計

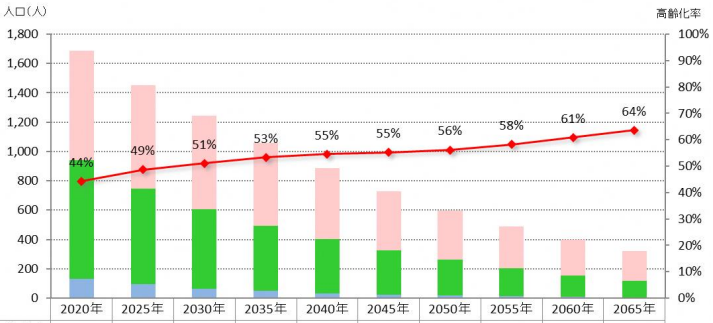
8-6. 朽木地域【シミュレーション①】

【シミュレーション想定条件】
毎年2.1人の流入
（0～4歳0.1人、5～9歳0.1人、10～14歳0.1人、15～19歳0.1人、20～24歳0.2人、25～29歳0.2人、30～34歳0.2人、35～39歳0.2人、40～44歳0.2人、45～49歳0.2人、50～54歳0.1人、55～59歳0.1人、60～64歳0.1人 、65～69歳0.1人、70～74歳0.1人）
合計特殊出生率が5年ごとに変動
（2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）
【合計　毎年2.1人（人口の0.1%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

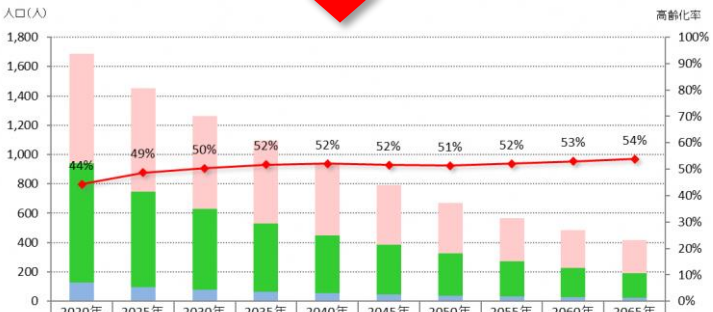
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は415人となり、現状推移の323人を92人（増減率＋28.5%）上回る。
- ✓ 年少人口は22人となり、現状推移の6人を16人（同+266.7%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は170人となり、現状推移の112人を58人（同+51.8%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は10ポイント改善し54%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	746	708	635	564	483	403	335	283	241	206
15～64歳	810	648	544	447	368	304	246	192	147	112
0～14歳	129	97	65	47	34	23	16	12	8	6
合計	1,685	1,453	1,244	1,058	885	730	597	487	396	323
高齢化率	44%	49%	51%	53%	55%	55%	56%	58%	61%	64%

＜シミュレーション結果＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	746	708	636	566	487	409	344	295	256	224
15～64歳	810	648	552	462	390	339	289	241	201	170
0～14歳	129	97	76	66	57	44	36	30	26	22
合計	1,685	1,453	1,264	1,094	934	792	669	566	483	415
高齢化率	44%	49%	50%	52%	52%	52%	51%	52%	53%	54%

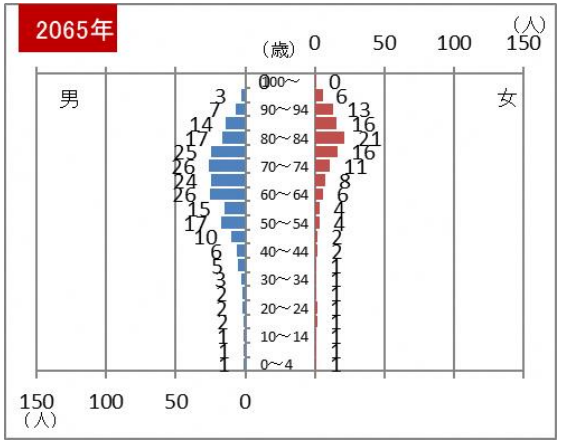
8. 地域別の人口推計

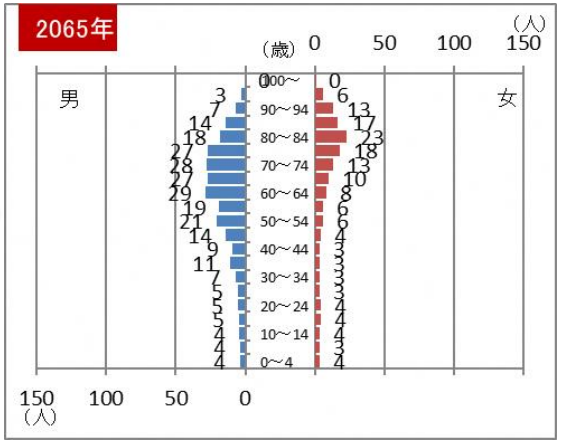
8-6朽木地域【シミュレーション①】

◇ シミュレーション結果の解説

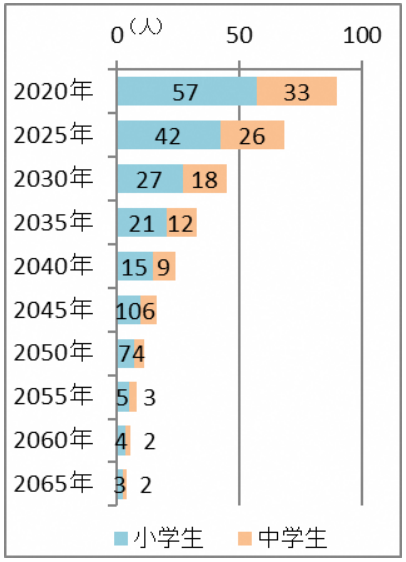
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでもほとんど改善はみられない。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が9人となり、現状推移の3人を6人（増減率+200.0%）上回り、中学生が5人となり、現状推移の2人を3人（同+150.0%）上回る。

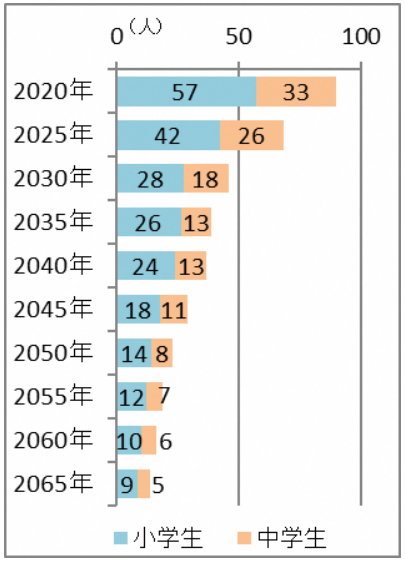
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





8. 地域別の人口推計

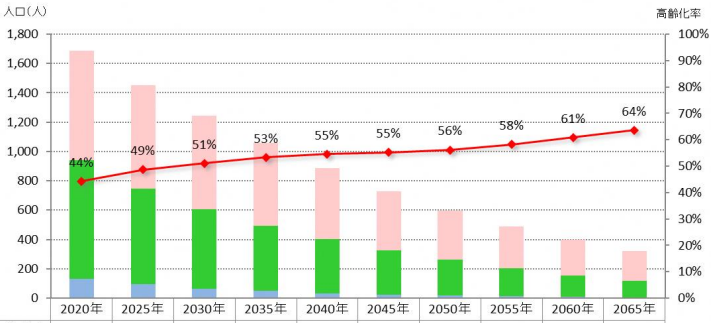
8-6. 朽木地域【シミュレーション②】

【シミュレーション想定条件】
毎年2.1人の流入
（0～4歳0.1人、5～9歳0.1人、10～14歳0.1人、15～19歳0.1人、20～24歳0.2人、25～29歳0.2人、30～34歳0.2人、35～39歳0.2人、40～44歳0.2人、45～49歳0.2人、50～54歳0.1人、55～59歳0.1人、60～64歳0.1人 、65～69歳0.1人、70～74歳0.1人）
合計特殊出生率が1.60を推移
【合計　毎年2.1人（人口の0.1%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

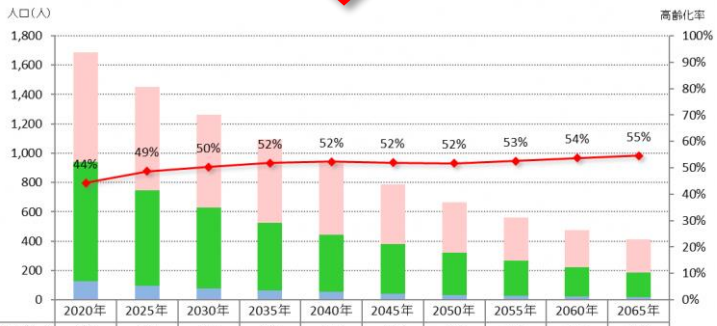
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は410人となり、現状推移の323人を87人（増減率＋26.9%）上回る。
- ✓ 年少人口は19人となり、現状推移の6人を13人（同+216.7%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は167人となり、現状推移の112人を55人（同+49.1%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は9ポイント改善し55%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	746	708	635	564	483	403	335	283	241	206
15～64歳	810	648	544	447	368	304	246	192	147	112
0～14歳	129	97	65	47	34	23	16	12	8	6
合計	1,685	1,453	1,244	1,058	885	730	597	487	396	323
高齢化率	44%	49%	51%	53%	55%	55%	56%	58%	61%	64%

＜シミュレーション結果＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	746	708	636	566	487	409	344	295	256	224
15～64歳	810	648	552	462	390	338	288	239	199	167
0～14歳	129	97	75	64	54	40	32	27	23	19
合計	1,685	1,453	1,263	1,092	931	788	664	561	477	410
高齢化率	44%	49%	50%	52%	52%	52%	52%	53%	54%	55%

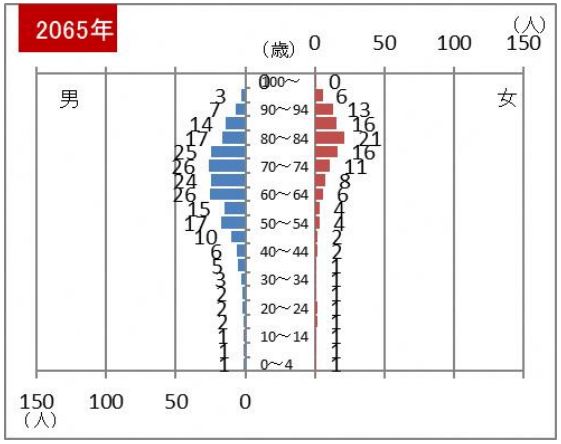
8. 地域別の人口推計

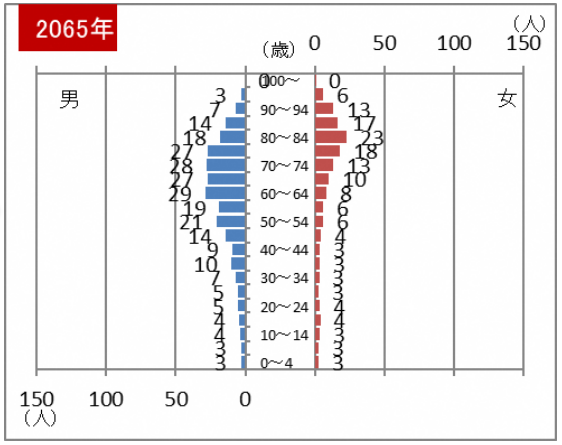
8-6朽木地域【シミュレーション②】

◇ シミュレーション結果の解説

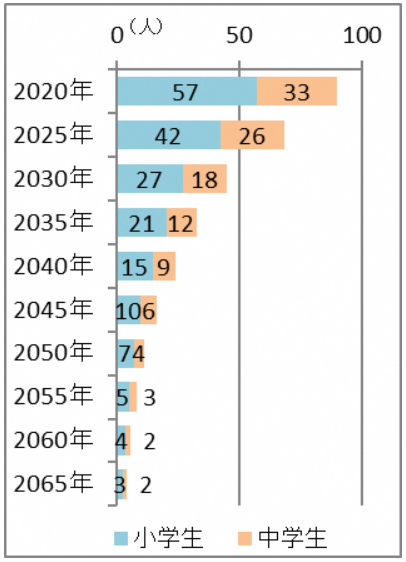
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでもほとんど改善はみられない。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が8人となり、現状推移の3人を5人（増減率+166.7%）上回り、中学生が4人となり、現状推移の2人を2人（同+100.0%）上回る。

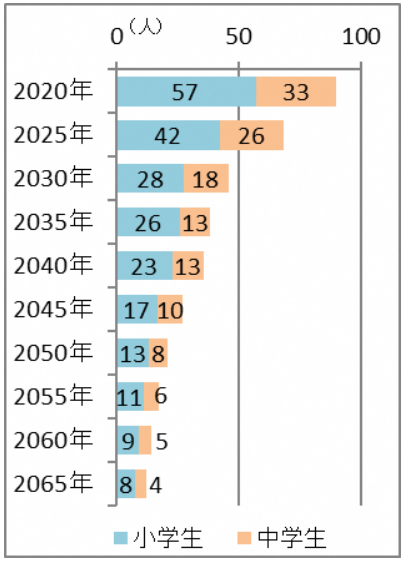
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





9. 地域別の人口推計

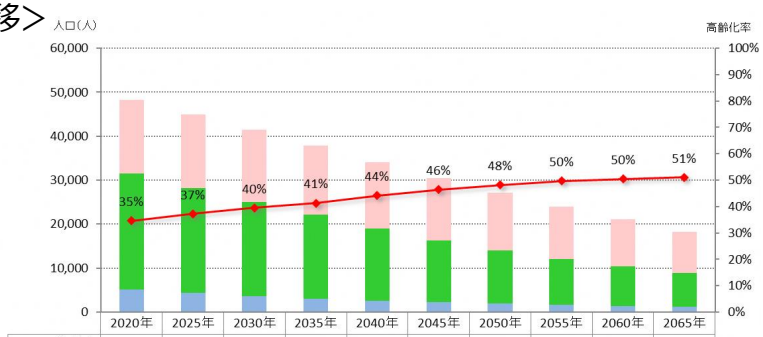
【参考】高島市全体【追加シミュレーション】

【シミュレーション想定条件】
毎年341人の流入
（0～4歳20人、5～9歳20人、10～14歳20人、15～19歳20人、20～24歳35人、25～29歳35人、30～34歳35人、35～39歳30人、40～44歳30人、45～49歳30人、50～54歳15人、55～59歳15人、60～64歳15人 、65～69歳15人、70～74歳6人）
合計特殊出生率が1.60を推移
【合計　毎年341人（人口の0.8%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の市内人口は34,521人となり、現状推移の18,295人を16,226人（増減率+88.7%）上回る。
- ✓ 年少人口は4,364人となり、現状推移の1,194人を3,170人（同+265.5%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は18,010人となり、現状推移の7,769人を10,241人（同+131.8%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は16ポイント改善し35%となる。
- ✓ 人口の安定推移を達成するためには、上記シミュレーションの達成が目標となる。

<現状推移>



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	16,670	16,754	16,372	15,623	15,079	14,172	13,058	11,924	10,618	9,333
15～64歳	26,364	23,816	21,389	19,096	16,415	14,097	12,143	10,404	9,013	7,769
0～14歳	5,166	4,380	3,672	3,081	2,617	2,240	1,917	1,645	1,403	1,194
合計	48,200	44,949	41,433	37,800	34,111	30,509	27,119	23,972	21,034	18,295
高齢化率	35%	37%	40%	41%	44%	46%	48%	50%	50%	51%

<シミュレーション結果>

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	16,670	16,754	16,477	15,902	15,592	14,967	14,242	13,583	12,818	12,147
15～64歳	26,364	23,816	22,689	21,643	20,175	19,493	19,001	18,510	18,249	18,010
0～14歳	5,166	4,380	4,421	4,553	4,757	4,593	4,501	4,465	4,410	4,364
合計	48,200	44,949	43,588	42,097	40,523	39,053	37,745	36,558	35,478	34,521
高齢化率	35%	37%	38%	38%	38%	38%	38%	37%	36%	35%

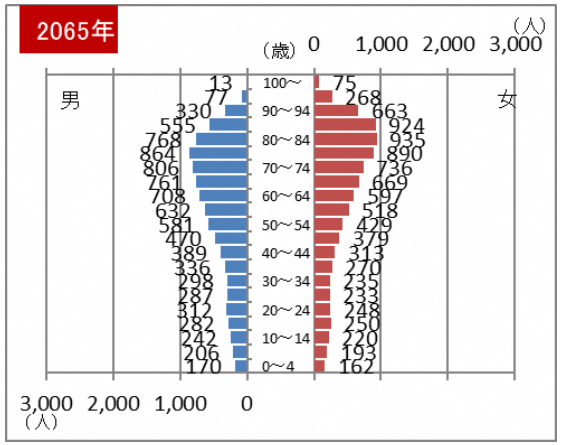
9. 地域別の人口推計

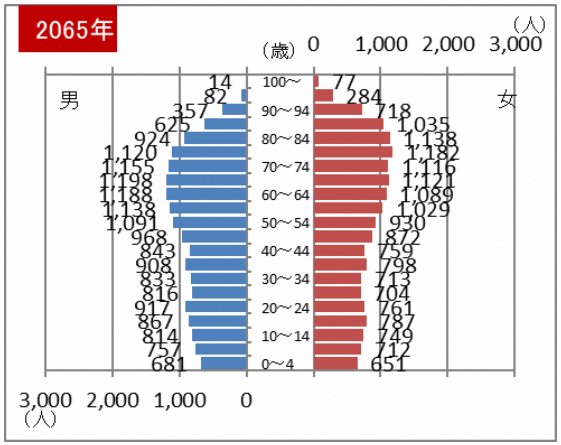
【参考】高島市全体【追加シミュレーション】

◇ シミュレーション結果の解説

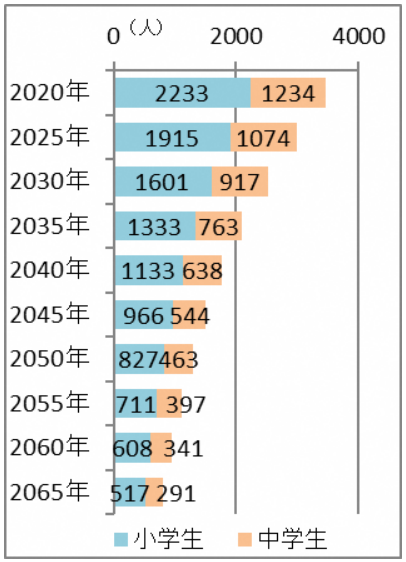
- ✓ 2065年時点の人口ピラミッドは、現状推移の場合が少子高齢化を示す逆三角形型になることに比べて、シミュレーション条件の達成により、すべての年代で増加が見込まれる。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で、小学生が1,819人となり、現状推移の517人を1,302人（増減率+251.8%）上回り、中学生が956人となり、現状推移の291人を665人（同+228.5%）上回る。

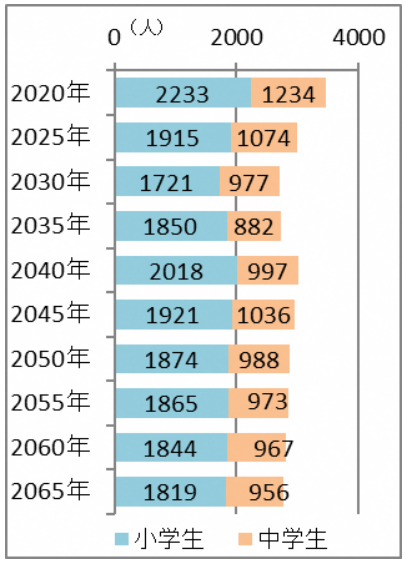
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





9. 地域別の人口推計

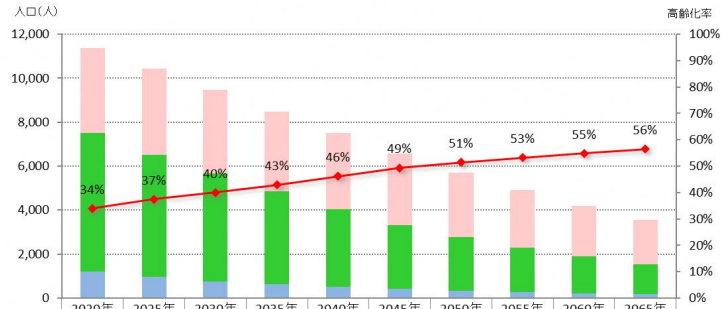
【参考】今津地域【追加シミュレーション】

【シミュレーション想定条件】
毎年80人の流入
・20代後半の男女20人が毎年流入
・30代前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年20組流入
合計特殊出生率が1.50を推移
【合計　毎年80人（人口の0.8%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

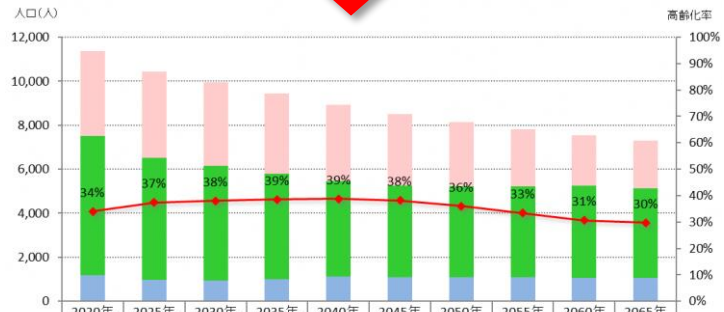
- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は7,314人となり、現状推移の3,546人を3,768人（増減率＋106.3%）上回る。
- ✓ 年少人口は1,048人となり、現状推移の174人を874人（同+502.3%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は4,092人となり、現状推移の1,371人を2,721人（同+198.5%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は26ポイント改善し30%となる。
- ✓ 人口の安定推移を達成するためには、上記シミュレーションの達成が目標となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,868	3,906	3,784	3,636	3,465	3,242	2,936	2,617	2,307	2,001
15～64歳	6,315	5,552	4,920	4,225	3,533	2,915	2,437	2,036	1,681	1,371
0～14歳	1,193	975	754	618	502	411	334	269	216	174
合計	11,376	10,432	9,458	8,479	7,500	6,568	5,707	4,922	4,203	3,546
高齢化率	34%	37%	40%	43%	46%	49%	51%	53%	55%	56%

＜シミュレーション結果＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	3,868	3,906	3,784	3,636	3,465	3,242	2,936	2,617	2,307	2,174
15～64歳	6,315	5,552	5,220	4,795	4,362	4,167	4,121	4,126	4,176	4,092
0～14歳	1,193	975	942	1,008	1,106	1,092	1,088	1,082	1,062	1,048
合計	11,376	10,432	9,946	9,439	8,932	8,501	8,146	7,825	7,545	7,314
高齢化率	34%	37%	38%	39%	39%	38%	36%	33%	31%	30%

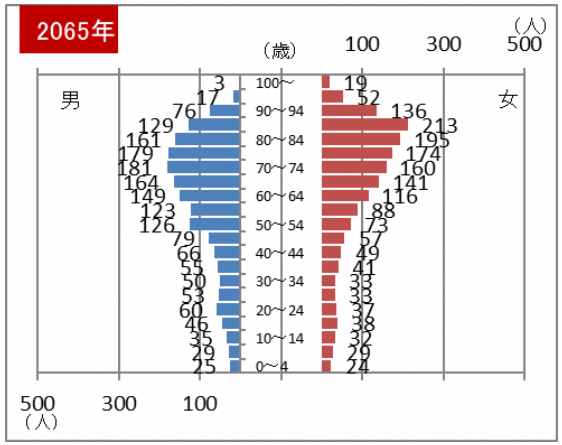
9. 地域別の人口推計

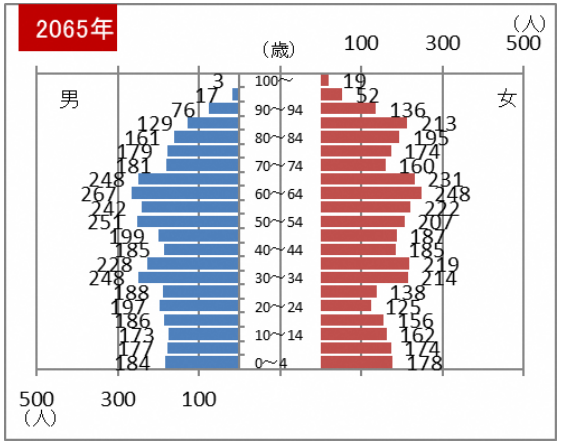
【参考】今津地域【追加シミュレーション】

◇ シミュレーション結果の解説

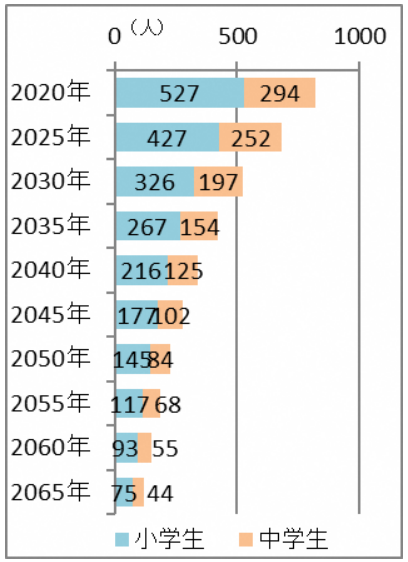
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションでは30歳以下の人口が安定する。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が412人となり、現状推移の75人を337人（増減率+449.3%）上回り、中学生が203人となり、現状推移の44人を159人（同+361.4%）上回る。

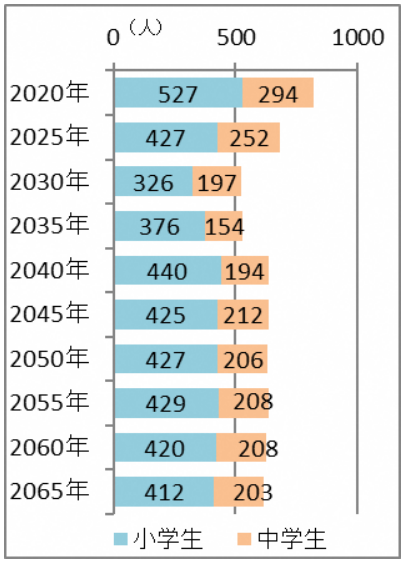
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）





9. 地域別の人口推計

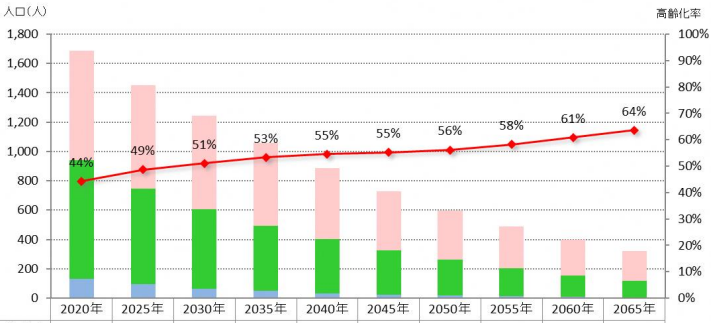
【参考】朽木地域【追加シミュレーション】

【シミュレーション想定条件】
毎年9人の流入
・30第前半で子ども（0～4歳）が1人いる夫婦が毎年3組流入
合計特殊出生率が1.30を推移
【合計　毎年9人（人口の0.6%）増】

◇ シミュレーション結果の解説

- ✓ 上記条件を毎年実現した場合、2065年の地域人口は653人となり、現状推移の323人を330人（増減率＋102.2%）上回る。
- ✓ 年少人口は74人となり、現状推移の6人を68人（同＋1133.3%）上回る。
- ✓ 生産年齢人口は350人となり、現状推移の112人を238人（同+212.5%）上回る。
- ✓ 2065年の高齢化率は29ポイント改善し35%となる。

＜現状推移＞



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	746	708	635	564	483	403	335	283	241	206
15～64歳	810	648	544	447	368	304	246	192	147	112
0～14歳	129	97	65	47	34	23	16	12	8	6
合計	1,685	1,453	1,244	1,058	885	730	597	487	396	323
高齢化率	44%	49%	51%	53%	55%	55%	56%	58%	61%	64%

＜シミュレーション結果＞

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
65歳以上	746	708	635	564	483	403	335	283	241	229
15～64歳	810	648	574	505	452	428	408	387	375	350
0～14歳	129	97	86	86	89	83	80	78	76	74
合計	1,685	1,453	1,294	1,154	1,023	913	823	748	693	653
高齢化率	44%	49%	49%	49%	47%	44%	41%	38%	35%	35%

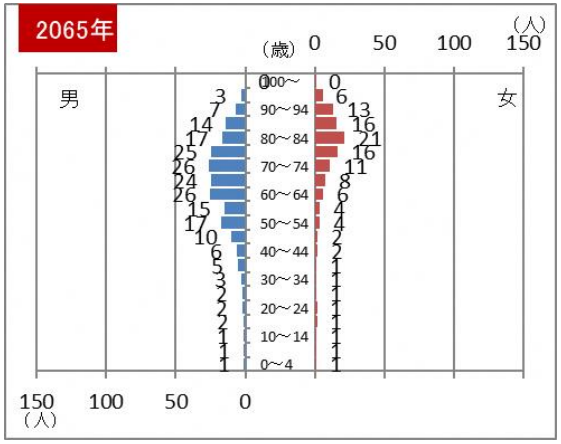
9. 地域別の人口推計

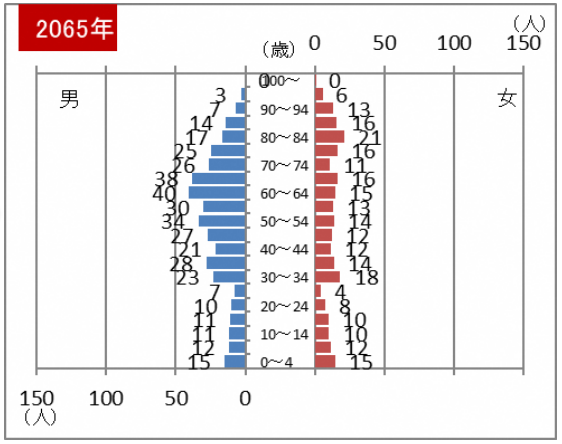
【参考】朽木地域【追加シミュレーション】

◇ シミュレーション結果の解説

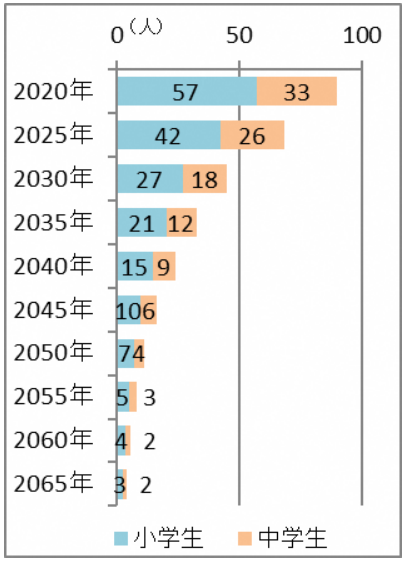
- ✓ 人口ピラミッドによると、シミュレーションではほとんどの年代で人口の増加がみられる。
- ✓ 児童・生徒数は、2065年時点で小学生が27人となり、現状推移の3人を24人（増減率＋800.0%）上回り、中学生が13人となり、現状推移の2人を11人（同＋550.0%）上回る。

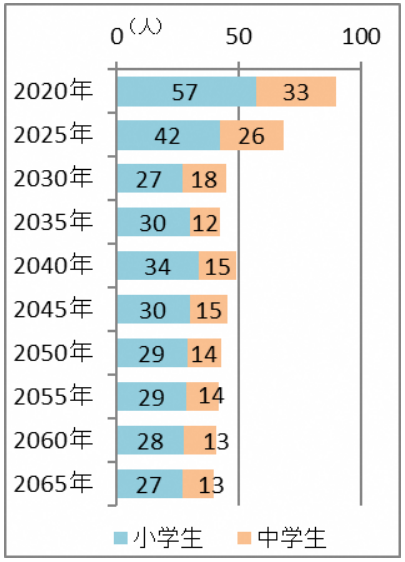
◇ 人口ピラミッド（現状推移 → シミュレーション）





◇ 児童・生徒数（現状推移 → シミュレーション）

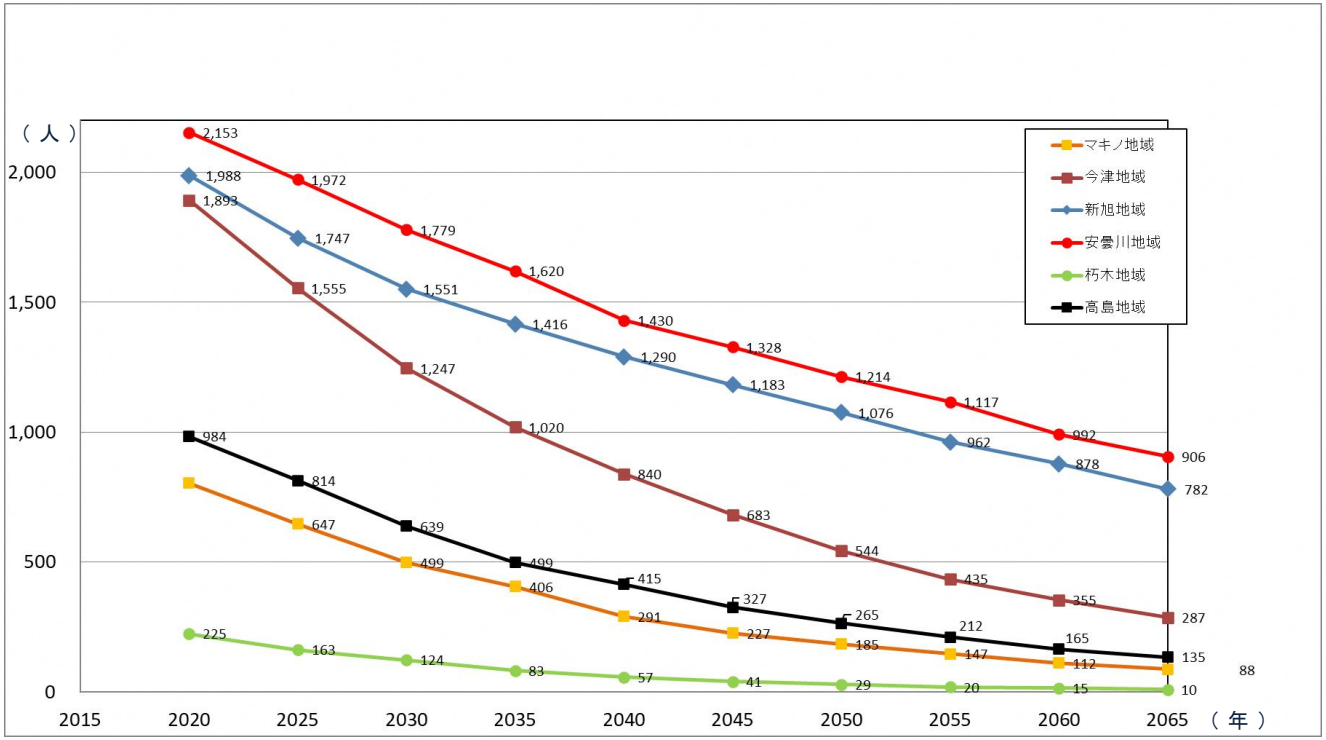




9. 地域別の人口推計

【参考】各地域の15～49歳女性の人口推移

各町の15～49歳の女性の人口



年代	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
マキノ地域	805	647	499	406	291	227	185	147	112	88
今津地域	1,893	1,555	1,247	1,020	840	683	544	435	355	287
新旭地域	1,988	1,747	1,551	1,416	1,290	1,183	1,076	962	878	782
安曇川地域	2,153	1,972	1,779	1,620	1,430	1,328	1,214	1,117	992	906
高島地域	984	814	639	499	415	327	265	212	165	135
朽木地域	225	163	124	83	57	41	29	20	15	10

地域別のシミュレーション内容と結果

【地域別】

地域名 2025年地域人口 2025年合計特殊出生率 （推計値）	シミュレーション想定条件			2065年人口 （シミュレーション結果）	2065年人口 （現状推移）
	シミュレーションパターン	世代別流入条件、合計特殊出生率条件	転入数		
【高島市全体】 44,949人 1.21	シミュレーション①	毎年70人の流入 （0～4歳4人、5～9歳4人、10～14歳4人、15～19歳4人、20～24歳7.2人、25～29歳7.2人、30～34歳7.2人、35～39歳6人、40～44歳6人、45～49歳6人、50～54歳3.2人、55～59歳3.2人、60～64歳3.2人 、65～69歳3.2人、70～74歳1.6人） 合計特殊出生率が5年ごとに変動 （2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）	毎年70人	23,668人	18,295人
	シミュレーション②	毎年70人の流入 （0～4歳4人、5～9歳4人、10～14歳4人、15～19歳4人、20～24歳7.2人、25～29歳7.2人、30～34歳7.2人、35～39歳6人、40～44歳6人、45～49歳6人、50～54歳3.2人、55～59歳3.2人、60～64歳3.2人 、65～69歳3.2人、70～74歳1.6人） 合計特殊出生率が1.60を推移	毎年70人	22,915人	
【マキノ地域】 5,006人 0.89	シミュレーション①	毎年7.5人の流入 （0～4歳0.4人、5～9歳0.4人、10～14歳0.4人、15～19歳0.4人、20～24歳0.8人、25～29歳0.8人、30～34歳0.8人、35～39歳0.6人、40～44歳0.6人、45～49歳0.6人、50～54歳0.4人、55～59歳0.4人、60～64歳0.4人 、65～69歳0.4人、70～74歳0.1人） 合計特殊出生率が5年ごとに変動 （2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）	毎年7.5人	1,903人	1,381人
	シミュレーション②	毎年7.5人の流入 （0～4歳0.4人、5～9歳0.4人、10～14歳0.4人、15～19歳0.4人、20～24歳0.8人、25～29歳0.8人、30～34歳0.8人、35～39歳0.6人、40～44歳0.6人、45～49歳0.6人、50～54歳0.4人、55～59歳0.4人、60～64歳0.4人 、65～69歳0.4人、70～74歳0.1人） 合計特殊出生率が1.60を推移	毎年7.5人	1,854人	
【今津地域】 10,432人 1.18	シミュレーション①	毎年16.2人の流入 （0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳1.6人、25～29歳1.6人、30～34歳1.6人、35～39歳1.4人、40～44歳1.4人、45～49歳1.4人、50～54歳0.7人、55～59歳0.7人、60～64歳0.7人 、65～69歳0.7人、70～74歳0.4人） 合計特殊出生率が5年ごとに変動 （2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）	毎年16.2人	4,582人	3, 546人
	シミュレーション②	毎年16.2人の流入 （0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳1.6人、25～29歳1.6人、30～34歳1.6人、35～39歳1.4人、40～44歳1.4人、45～49歳1.4人、50～54歳0.7人、55～59歳0.7人、60～64歳0.7人 、65～69歳0.7人、70～74歳0.4人） 合計特殊出生率が1.60を推移	毎年16.2人	4,459人	

地域別のシミュレーション内容と結果

【地域別】

地域名 2025年地域人口 2025年合計特殊出生率 （推計値）	シミュレーション想定条件			2065年人口 （シミュレーション結果）	2065年人口 （現状推移）
	シミュレーションパターン	世代別流入条件、合計特殊出生率条件	転入数		
【新旭地域】 10,481人 1.29	シミュレーション①	毎年16.2人の流入 （0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳1.6人、25～29歳1.6人、30～34歳1.6人、35～39歳1.4人、40～44歳1.4人、45～49歳1.4人、50～54歳0.7人、55～59歳0.7人、60～64歳0.7人 、65～69歳0.7人、70～74歳0.4人） 合計特殊出生率が5年ごとに変動 （2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）	毎年16.2人	7,231人	5,720人
	シミュレーション②	毎年16.2人の流入 （0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳1.6人、25～29歳1.6人、30～34歳1.6人、35～39歳1.4人、40～44歳1.4人、45～49歳1.4人、50～54歳0.7人、55～59歳0.7人、60～64歳0.7人 、65～69歳0.7人、70～74歳0.4人） 合計特殊出生率が1.60を推移	毎年16.2人	6,957人	
【安曇川地域】 12,038人 1.32	シミュレーション①	毎年18.8人の流入 （0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳2人、25～29歳2人、30～34歳2人、35～39歳1.6人、40～44歳1.6人、45～49歳1.6人、50～54歳0.9人、55～59歳0.9人、60～64歳0.9人 、65～69歳0.9人、70～74歳0.4人） 合計特殊出生率が5年ごとに変動 （2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）	毎年18.8人	7,770人	6,156人
	シミュレーション②	毎年18.8人の流入 （0～4歳1人、5～9歳1人、10～14歳1人、15～19歳1人、20～24歳2人、25～29歳2人、30～34歳2人、35～39歳1.6人、40～44歳1.6人、45～49歳1.6人、50～54歳0.9人、55～59歳0.9人、60～64歳0.9人 、65～69歳0.9人、70～74歳0.4人） 合計特殊出生率が1.60を推移	毎年18.8人	7,481人	
【高島地域】 5,554人 1.07	シミュレーション①	毎年9.2人の流入 （0～4歳0.5人、5～9歳0.5人、10～14歳0.5人、15～19歳0.5人、20～24歳1人、25～29歳1人、30～34歳1人、35～39歳0.8人、40～44歳0.8人、45～49歳0.8人、50～54歳0.4人、55～59歳0.4人、60～64歳0.4人 、65～69歳0.4人、70～74歳0.2人） 合計特殊出生率が5年ごとに変動 （2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）	毎年9.2人	2,509人	1,869人
	シミュレーション②	毎年9.2人の流入 （0～4歳0.5人、5～9歳0.5人、10～14歳0.5人、15～19歳0.5人、20～24歳1人、25～29歳1人、30～34歳1人、35～39歳0.8人、40～44歳0.8人、45～49歳0.8人、50～54歳0.4人、55～59歳0.4人、60～64歳0.4人 、65～69歳0.4人、70～74歳0.2人） 合計特殊出生率が1.60を推移	毎年9.2人	2,439人	

地域別のシミュレーション内容と結果

【地域別】

地域名 2025年地域人口 2025年合計特殊出生率 （推計値）	シミュレーション想定条件			2065年人口 （シミュレーション結果）	2065年人口 （現状推移）
	シミュレーションパターン	世代別流入条件、合計特殊出生率条件	転入数		
【朽木地域】 1,453人 1.12	シミュレーション①	毎年2.1人の流入 （0～4歳0.1人、5～9歳0.1人、10～14歳0.1人、15～19歳0.1人、20～24歳0.2人、25～29歳0.2人、30～34歳0.2人、35～39歳0.2人、40～44歳0.2人、45～49歳0.2人、50～54歳0.1人、55～59歳0.1人、60～64歳0.1人 、65～69歳0.1人、70～74歳0.1人） 合計特殊出生率が5年ごとに変動 （2025年:1.60、2030年:1.65、2035年:1.70、2040年：1.75、2045年以降1.80）	毎年2.1人	415人	323人
	シミュレーション②	毎年2.1人の流入 （0～4歳0.1人、5～9歳0.1人、10～14歳0.1人、15～19歳0.1人、20～24歳0.2人、25～29歳0.2人、30～34歳0.2人、35～39歳0.2人、40～44歳0.2人、45～49歳0.2人、50～54歳0.1人、55～59歳0.1人、60～64歳0.1人 、65～69歳0.1人、70～74歳0.1人） 合計特殊出生率が1.60を推移	毎年2.1人	410人	

11. 【参考事例１】他地域における取組 ～高知県四万十町～

◇ 高知県四万十町の移住･定住推進策

- ✓ 高知県四万十町は、高知県の西南部に位置する人口15,607人、高齢化率45%(2020年国勢調査)の地域。
- ✓ 移住交流推進機構（JOIN）等のインターネットサイトでの広報、東京や大阪で実施される高知県の移住フェアへの参加、移住相談員や移住サポーターの配置、町内での移住体験ツアーの実施など、多彩な移住促進策を実施。
- ✓ 移住者への住宅対策として、お試し滞在施設の設置、空き家情報の提供、UIJターン者への家賃助成（1.5万円×12か月）や住宅改修費用の助成（上限326.3万円）に加え、平成26年からは中間管理住宅整備事業（町が空き家を借上げ、水回り等をリフォームした上で、移住者への賃貸を行う事業）を実施。これまで同事業により45棟の空き家活用を実現。
- ✓ 定住促進対策として、若者定住促進支援事業（40歳以下を対象とした住宅取得経費の補助、上限100万円）等を実施している。
- ✓ 中学生以下の医療費の無償化に加え、町内に産科･小児科がないことを踏まえ、町外への通院費の助成を行うとともに、24時間対応で健康･医療関係の電話相談を受け付けるなどの支援を行っている。

◇ お試し滞在施設の整備及び管理運営

- 移住希望者にとって、新たな土地へ移り住むことは期待と同時に大きな不安があることから、短中期的に四万十町を体験してもらうことで、町の魅力を直接感じてもらうとともに、不安を解消してもらうことを目的に、2012年度から「お試し滞在施設」の整備に着手し、これまでに5棟を整備。
- お試し滞在施設の利用が移住につながったケースもあり、一定の効果をあげている。
- 施設を利用した方に本町へ定住してもらうための施策として、各種補助金を整備。移住者の増加と同様、補助制度を活用する利用者も年々増加し、「移住から定住へ」といった流れが確立されてきた。

○移住促進家賃支援事業補助金　･･･上限　1.5万円×12月
○空き家活用事業費補助金　･･･上限　270万円
○若者定住支援事業補助金　･･･上限　100万円
○家族支え合い居住支援事業補助金　･･･上限　100万円

◇ お試し滞在施設の概要

入居対象者	･将来的に四万十町への移住を考えている方 ･入居期間中、周辺の地域住民と交流がもてる方
入居期間	1ヵ月単位（最長3ヵ月）
家賃	1ヵ月1～2万円（光熱水費は別途必要）
設備	基本的な家具、電化製品、食器類、寝具等は備え付けており、すぐに生活可
持参するもの	タオル、歯ブラシ等の生活用品
ネット環境	契約により使用可能 (※契約不要の物件もあり)

11. 【参考事例２】他地域における取組 ～愛媛県西条市～

◇ 愛媛県西条市の概要と移住施策

- ✓ 西条市は愛媛県東部に位置し、人口108,246人、高齢化率32%（2020年国勢調査）。
- ✓ 日本一の生産量を誇るはだか麦やあたご柿、春の七草など、多種多様な農作物の一大産地であるとともに、飲料、電気機械などの工場が立地し、四国最大規模の工業地帯となっている。
- ✓ 宝島社が発行する「田舎暮らしの本」で発表された「住みたい田舎ベストランキング」において2020から2022年まで3年連続、若者世代部門で全国1位。
- ✓ 移住者数の推移は、2017年度106人、2018年度289人、2019年度346人、2020年度358人、2021年度1,177人となっており、移住プロジェクト開始の2018年度以降着実に移住者を増やしている。また、移住者の約8割が若者世代である。
- ✓ コロナ禍においてもインターネットの効力を十分に活用したオンライン相談や、若い起業家の支援にも注力し、若い世代の活力がさらに若者を呼ぶという好循環を生んでいる。

◇ オーダーメイド型移住体験ツアー

- 往復の交通費や宿泊費、食費が全て無料かつ、「場所」ではなく「人」へのアクセスを優先した「オーダーメイド型」の個別移住体験ツアーを実施。
- ツアー内容は参加した移住検討者それぞれのライフスタイルや関心事に合わせてカスタマイズされ、また、先輩移住者や地元農家、企業の社員や学校の先生など、地域住民から話を聞くことができる。それにより、移住後のイメージを持ちやすく、移住者の増加につながっている。

◇ 移住×プロモーション

- 移住推進を担う移住推進課と連携し、シティプロモーション推進課が移住に関する情報発信を行っている。HP、SNS、オウンドメディアに加え、テレビ、ラジオ、YouTubeなど様々なメディアで、若い子育て世代を中心としたアプローチを実施することで、「メディアがメディアを呼ぶ」「移住者が移住者を呼ぶ」２つの好循環が生まれた。
- また、地域内への情報発信にも力を入れており、広報誌「広報さいじょう」が全国広報コンクールで総務大臣賞を受賞している。

11. 【参考事例３】他地域における取組 ～山梨県身延町～

◇ 山梨県身延町の移住・定住推進策

- ✓ 山梨県身延町は、山梨県の南部に位置する人口10,663人、高齢化率47.6%（2020年国勢調査）の地域。
- ✓ 移住交流推進機構（JOIN）等のインターネットサイトでの情報発信に注力。充実した子育て支援制度をアピールするため、移住・定住パンフレットを子育て世代をターゲットにしたデザインにしている。
- ✓ 移住者のニーズに対応した住宅対策として、田舎暮らし体験施設を運営。町の四季を感じてもらうため1～2年の滞在を可能にし、長期滞在で町を体験できる。
- ✓ 移住定住に関する各種祝金として、「移住・定住祝金」、「定住促進祝金」を用意。他の自治体では補助金が多い中で、利用用途を問わない祝金にすることで、なるべく多くの人に利用を促すとともに、他自治体との差別化を図っている。
- ✓ 身延町子育て全力サポート宣言を掲げ、高校生以下の医療費の無償化、高校生以下の町営バスの無料化、中学生まで給食費全額補助など、産前から高校生まで一貫した手厚い子育てサポートを実施している。

◇ 移住・定住祝金

- 定住促進を図るため、移住・定住祝金を制定。（令和2年4月1日～令和6年3月31日の期間限定措置）
- 他の自治体では補助金という扱いが多いなかで、利用用途を問わない祝金にすることで、なるべく多くの人の活用を促すとともに、他自治体との差別化を図る。

◇ 移住・定住祝金の種類

◆ 新築住宅祝金

対象者	祝金
住宅を新築した移住者	50万円
町分譲地に新築した町民	50万円
町分譲地に新築した移住者	100万円

◆ 住宅購入祝金

対象者	祝金
空き家・土地バンク制度を利用し、中古物件を購入した移住者	20万円

◆ 引越祝金

対象者	祝金
空き家・土地バンク制度を利用し、転入した移住者	10万円

※新築住宅祝金及び住宅購入祝金は、移住者と同一世帯に18歳までの子がいる場合は子1人につき20万円を加算。

11. 【参考事例４】他地域における取組 ～北海道上士幌町～

◇ 北海道上士幌町の移住･定住推進策

- ✓ 上士幌町は北海道十勝地方の北部に位置する町で、人口4,778人、高齢化率35%（2020年国勢調査）である。
- ✓ 地域資源を活用しながら、健康･環境･観光と子育て･教育をコンセプトにしたまちづくりをすすめており、令和3年にSDGs未来都市、令和4年に脱炭素先行地域として国に選定された。
- ✓ 住み続けられる町、子どもたちが帰ってきたいと思えるまちづくりをするなかで、結果として移住定住に繋がる町を目指している。
- ✓ 移住前に生活体験を勧めたり、先輩移住者との交流機会を設けたりするなど、移住後の生活の方向性の整理ができるよう、特定非営利活動法人上士幌コンシェルジュが手厚くサポート。
- ✓ ふるさと納税を活用し、認定こども園「ほろん」を開園。同園に通う子どもの保育料を完全無料化。また同園では保育園留学の体験プログラムも実施している。
- ✓ 高校生までの医療費の全額補助や、住宅購入助成として住宅を新築した場合、中学生以下の子ども一人につき100万円を助成するなど手厚い子育て支援を展開。
- ✓ 生活体験モニター事業では、1週間～1か月程度の短期生活と1か月～1年の中長期生活の2パターンの移住体験が可能。2023年1月時点では、多くの入居希望が寄せらせ順番待ちの状況となっている。

◇子育て支援の充実×認定こども園「ほろん」

- ふるさと納税を活用し「子育て少子化対策夢基金」を積み立て、平成27年に定員120名の認定こども園「ほろん」を開園。翌年には同園に通う子どもの保育料を完全無償化。また同園では保育園留学も実施している。
- そのほかにも夢基金を活用し、高校世代までの子ども医療費助成事業、子育て世帯住宅建設支援事業などの子育て支援も実施している。

画像：上士幌町HPより

▼ 子ども支援策の一例

支援策	説明
子ども医療費助成事業	高校生までの医療費の自己負担分の全額を助成
子どもの夢･未来応援事業	子どもたちの夢を育むため、スポーツ･文化の一流講師を招き、直接指導や講演会等を実施
認定こども園遠距離通園支援事業	遠距離から通園する過程の負担軽減を図る
子育て支援･少子化対策住宅建設助成金当交付事業	住宅を新築した場合、中学生以下の子ども一人あたり100万円を助成（町内建設業者による施工の場合は、助成金合計額に50万円を加算）

◇企業滞在型交流施設「にっぽうの家」

- 令和4年に企業滞在型交流施設「にっぽうの家」を開業。当該施設は宿泊･滞在スペースと交流･イベントスペースを備える。
- 「新しい働くを考える」をコンセプトに「無印良品の家」が設計。
- 個人の移住者だけでなく、ワーケーションやサテライトオフィスなどの企業誘致にも力を注いでいる。

画像：にっぽうの家HPより

12. おわりに ～小規模地域人口推計に基づく政策・施策の検討にあたって～

高島市の人口は近年、自然減と社会減の傾向が続き、45,780人（2024年1月1日時点）となっている。

将来推計人口を見ると、地区別で差はあるものの、いずれも年少人口と生産年齢人口で特に若年層が著しく減少する見込みであり、ほとんどの地域において高齢化率が上昇する結果となっている。特にマキノ地域、今津地域、高島地域、朽木地域、において人口が大きく減少する結果となった。マキノ地域では40年間で人口の72％以上、年少人口の87％以上が減少し、将来的な高齢化率は最高で65％に達することが推測される。今津地域では40年間で人口の66％以上、年少人口の82％以上が減少し、将来的な高齢化率は最高で56％に達することが推測される。高島地域では40年間で人口の66％以上、年少人口の84％が減少し、高齢化率は最高で57％に達することが推測される。朽木地域では40年間で人口の77％以上、年少人口の93％以上が減少し、高齢化率は最高で64％に達することが推測される。

人口が減少することで将来的な地区の存続や、行政サービスの確保が困難になることが懸念される。また、児童生徒数の減少は学校の統廃合についての議論にも発展するため慎重に検討する必要がある。今後のまちづくりのあり方などについて、改めて人口推計を土台として考える必要がある。

このような状況を踏まえ、全世代で安定的な人口構成を目指すために、出生率の上昇に加え、全世代での転入促進を想定としたシミュレーションを実施した。結果的に現状推移と比較し、人口の減少は緩やかになるものの、高島市全体として若年層の流出（特に20～34歳の女性）がほかの年齢層と比較し多いため、現在の人口を安定させるためには、若年層の流入促進もしくは流出抑制が安定した人口を保つために重要であると考える。

地区の将来像やこれからのまちのあり方、政策の方向性を考えるにあたっては、下記のとおり、人口推計・シミュレーション結果を基盤とするとともに、それぞれの地域に暮らす住民の方々と問題意識や目標を共有し、課題解決に向けて協働することが重要である。

①「人口は地域の暮らし・まちを形づくる基盤」

地域の将来や目指す姿を考えるうえで、人口はすべての基礎データであり、地方創生の主役である住民の方々にも現状や課題を理解しやすい形で示す必要がある。

②「定住の基盤は地元（日常の生活圏域）」

定住を受け止める基盤は日常の生活圏であり、行政区単位での現状分析や具体的な対策の提示が求められる。

③「人口減少対策に対する当事者意識の醸成」

行政区別の課題や可能性を踏まえるとともに、住民の意見を反映した目標を設定するなど、住民の方々が当事者意識を持って理解し共有し行動することが必要である。

人口減少は地域の存亡にかかわる問題であり、そこに暮らす住民が自らの生活圏である「地元」に、新たな移住者を受け入れながら生活していくことを前向きにとらえる必要がある。

さらに、住民の理解や協力のもとで移住者が増加しても、地域が所得面を含めて移住者の生活を支えることが出来なければ、定住には繋がらない。

地方創生に向けた取組を着実に推進するためには、人口減少をはじめとする諸課題に地域が一体となって取り組むとともに、高島市としても人と暮らしの両面において実効性の高い政策・施策を検討・実施していくことが求められる。